

基本計画書

基		本		計		画				
事 項		記 入 欄						備 考		
計 画 の 区 分		学部の設置								
フリガナ設置者		がっこうほうじん いおきがくえん 学校法人 稲置学園								
フリガナ大学の名称		かなざわせいりょうだいがく 金沢星稜大学（Kanazawa Seiryō University）								
大学本部の位置		石川県金沢市御所町丑10番地1								
大学の目的		「誠実にして社会に役立つ人間の育成」を建学の精神として、社会に有為な人材を育成する。								
新設学部等の目的		実用的な英語運用能力を基礎に国際的なコミュニケーション能力を育成する。加えて留学による異文化体験を通して、日本及び地元石川の文化と歴史の特質を理解する教養人であると同時に、国際的な視野で問題を捉え、異文化を理解し、異なる価値観を持つ人々と協働することができ、困難にも粘り強く立ち向かえるタフな職業人を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所 在 地		
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次			
	人文学部 (Faculty of Humanities) 国際文化学科 (Department of Intercultural Studies)	4	75	－	300	学士（人文学）	平成28年4月 第1年次	石川県金沢市御所町丑10番地1		
	計		75	－	300					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
	人文学部 国際文化学科	78科目	52科目	3科目	133科目	124単位				
教員組織の概要	学 部 等 の 名 称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設分	人文学部 国際文化学科		6 (4)	6 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (8)	0 (0)	43 (30)
		計		6 (4)	6 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (8)	0 (0)	－ (－)
	既設分	経済学部 経済学科		9 (9)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	67 (67)
		経済学部 経営学科		7 (7)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	63 (63)
		人間科学部 スポーツ学科		8 (7)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	14 (13)	1 (1)	67 (67)
		人間科学部 こども学科		10 (10)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	1 (1)	57 (57)
		教養教育部		2 (2)	4 (4)	6 (3)	0 (0)	12 (9)	0 (0)	43 (43)
		計		36 (35)	18 (18)	16 (13)	3 (3)	73 (69)	2 (2)	－ (－)
	合 計		42 (39)	24 (22)	16 (13)	3 (3)	85 (77)	2 (2)	－ (－)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		46人 (46)		6人 (6)		52人 (52)			
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		48 (48)		6 (6)		54 (54)			

校 地 等	区 分		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		金沢星稜大学女子短期 大学部(必要面積3,000 ㎡)と共用 【 借地面積 】 〔校舎敷地〕 借用面積：4,573㎡ 平成26年5月1日より 借用期間：30年 借用面積：1,359㎡ 平成27年1月1日より 借用期間：30年 借用面積：671㎡ 平成27年1月1日より 借用期間：22年 借用面積：330㎡ 平成27年1月1日より 借用期間：30年 〔運動場用地〕 借用面積：3,168㎡ 平成26年5月1日より 借用期間30年 借用面積：1,413㎡ 平成27年1月1日より 借用期間30年 〔その他〕 借用面積：4,959.83㎡ 平成27年4月1日より 借用期間2年 借用面積：303㎡ 平成26年4月1日より 借用期間2年 <u>借地面積計 16,776.83㎡</u>
	校 舎 敷 地		－㎡	35,001.00㎡		－㎡		35,001.00㎡		
	運 動 場 用 地		－㎡	34,312.79㎡		－㎡		34,312.79㎡		
	小 計		－㎡	69,313.79㎡		－㎡		69,313.79㎡		
	そ の 他		－㎡	6,599.83㎡		－㎡		6,599.83㎡		
	合 計		－㎡	75,913.62㎡		－㎡		75,913.62㎡		
校 舎			専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		金沢星稜大学女子短期 大学部(必要面積2,350 ㎡)と共用
			3,584.50㎡ (3,584.50㎡)	23,419.50㎡ (23,419.50㎡)		2,003.20㎡ (2,003.20㎡)		29,007.20㎡ (29,007.20㎡)		
教室等	講義室		演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体
	38室		34室	7室		6室 (補助職員 1人)		1室 (補助職員 一人)		
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数			
			人文学部 国際文化学科				12 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体及び金沢星稜 大学女子短期大学部と 共用分 【 図書 】 170,000冊〔25,000冊〕 【 学術雑誌 】 2,500種〔200種〕 【 電子ジャーナル 】 10種 【 視聴覚教材 】 4,200点	
	人文学部 国際文化学科		1,467〔180〕 (951〔128〕)	23〔15〕 (15〔15〕)	8〔8〕 (8〔8〕)	12 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計		1,467〔180〕 (951〔128〕)	23〔15〕 (15〔15〕)	8〔8〕 (8〔8〕)	12 (0)	0 (0)	0 (0)		
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体
			1,912.07㎡		270		203,570			
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
			4,974.44㎡		星稜スポーツセンター（剣道場・STUDIO・空手道場等を含む）					
					テニスコート6面					
					－					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	図書費には、電子ジャーナル の整備費(運用コスト含む) を含む。
		教員 1 人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－	－	
		共 同 研 究 費 等		208千円	234千円	312千円	312千円	－	－	
		図 書 購 入 費	5,489千円	2,750千円	739千円	1,108千円	1,405千円	－	－	
		設 備 購 入 費	37,631千円	1,080千円	2,070千円	3,000千円	3,870千円	－	－	
	学生 1 人当り 納付金		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
			1,302千円	1,182千円	1,182千円	1,182千円	－千円	－千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入							

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	金沢星稜大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	大学院	年	人	年次 人	人		倍			
	経営戦略研究科	2	10	—	20	修士（経済学・経営学）	0.85	平成14年度		
	経済学部						1.16			
	経済学科	4	230	—	920	学士（経済）	1.17	昭和42年度	石川県金沢市御所町丑10番地1	
	経営学科	4	150	—	600	学士（経営学）	1.15	平成16年度		
	人間科学部						1.22			
	スポーツ学科	4	60	—	240	学士（人間科学）	1.21	平成19年度		
	こども学科	4	60	—	200	学士（人間科学）	1.25	平成19年度		
附属施設の概要	金沢星稜大学女子短期大学部							昭和54年度		こども学科 平成26年度入学定員増 (20人)
	経営実務科	2	150	—	300	短期大学士（経営）	0.99			
		名 称：金沢星稜大学附属星稜幼稚園 目 的：地域における幼児教育の提供 所在地：石川県金沢市御所町寅27番地 設置年月：昭和40年4月 規模等：校地 2,942㎡ 名 称：金沢星稜大学附属星稜泉野幼稚園 目 的：地域における幼児教育の提供 所在地：石川県金沢市泉野町6丁目17番30号 設置年月：昭和58年4月 規模等：校地 2,619㎡								

学校法人稲置学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成27年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

平成28年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

変更の事由

金沢星稜大学				→	金沢星稜大学			
経済学部					経済学部			
経済学科	230	-	920		経済学科	230	-	920
経営学科	150	-	600		経営学科	150	-	600
人間科学部					人間科学部			
スポーツ学科	60	-	240		スポーツ学科	60	-	240
こども学科	60	-	240		こども学科	60	-	240
計	500		2,000					
金沢星稜大学大学院				→	金沢星稜大学大学院			
経営戦略研究科					経営戦略研究科			
経済・経営学専攻	10	-	20		経済・経営学専攻	10	-	20
計	10		20		計	10		20
金沢星稜大学女子短期大学部				→	金沢星稜大学女子短期大学部			
経営実務科					経営実務科			
計	150		300		計	150		300

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(人文学部 国際文化学科)			○数字は各学期（クォーター）をさす															
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			専任教員等の配置					備考				
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教			助 手		
教養科目	ゼミナール	基礎ゼミナール	1前	2				○		1	3				兼5			
	英語系	Conversation Skills I	1①②③④		2				○		1	1				兼1		
		Phrase and Expression Training I	1①②③④		2				○									
		International Testing I	1①②③④		2				○			1						
		Reading Skills I	1①②③④		2				○									
		Writing Skills I	1①②③④		2				○		1							
		Conversation Skills II	1①②③④		2				○		1	1				兼1		
		Phrase and Expression Training II	1①②③④		2				○			1						
		International Testing II	1①②③④		2				○			1						
		Reading Skills II	1①②③④		2				○									
		Writing Skills II	1①②③④		2				○		1							
		Conversation Skills III	1①②③④		2				○		1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1		
		Phrase and Expression Training III	1①②③④		2				○									
		International Testing III	1①②③④		2				○									
		Reading Skills III	1①②③④		2				○									
		Writing Skills III	1①②③④		2				○		1							
		Conversation Skills IV	1①②③④		2				○							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1		
		Phrase and Expression Training IV	1①②③④		2				○									
		International Testing IV	1①②③④		2				○									
		Reading Skills IV	1①②③④		2				○									
		Writing Skills IV	1①②③④		2				○		1							
	人 文 系	哲学/Philosophy	1①②②		2				○		1	3				兼1 兼1 兼3 兼3 兼1	オムニバス	
		英米文学/English and American Literature	1①②④		2				○									
		宗教学/Religious Studies	1①②④		2				○									
		文化人類学/Cultural Anthropology	1①②④		2				○									
		人文地理学/Human Geography	1①②④		2				○									
		異文化コミュニケーション論/Intercultural Communication	1②②③		2				○									
		日本文学	1②④		2				○									
		歴史学	1②④		2				○									
		心理学	1②④		2				○									
		論理学/Logic	1②②③		2				○									
		倫理学/Ethics	1③②④		2				○									
	社 会 系	経済学/Economics	1①②③		2				○							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1		
		日本国憲法	1①③		2				○									
		社会調査論	1①③		2				○									
		観光論入門/Tourism	1②②④		2				○									
		法学	1②		2				○									
		政治学	1③		2				○									
		経営学	1③		2				○									
		社会学	1④		2				○									
		コミュニケーション概論	1④		2				○									
	自 然 系	基礎数学	1①		2				○							兼1 兼1 兼1 兼2 兼1 兼1 兼1	オムニバス・ 共同（一部）	
		情報リテラシー	1①③		2					○								
		情報学	1②④		2				○									
		統計学	1③		2				○									
		自然科学概論	1③		2				○									
		環境学	1④		2				○									
		自然地理学	1④		2				○									
	スポーツ系	健康科学演習	1②		2				○							兼1 兼1 兼1		
		スポーツ科学演習	1③		2					○								
		健康・スポーツ科学概論	1④		2					○								
			教養科目合計（ 51科目）	—	2	100	0	—			5	5	0	0	0	兼31		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	基礎科目	比較文化	1①②	2			○		1	2					
		ワールドトピックス	1②③	2				○						兼2	
		日本社会と文化	1②③	2			○		1						
		小計(3科目)		6	0	0	—		2	2	0	0	0	兼2	
	基幹科目	Studies on Multicultural Symbiosis	3①②	2			○			1					
		Language and Culture	3①②	2			○		1						
		Religion and Culture	3①②	2			○			3					オムニバス
		小計(3科目)		6	0	0	—		1	3	0	0	0	0	
	比較文化学系	Religion and Ecology	3①③		2		○		1						
		Asian Society and Culture	3①③		2		○							兼1	
		European Society and Culture	3①③		2		○							兼1	
		Christianity and Culture	3②④		2		○			1					
		Islam and Culture	3②④		2		○			1					
		Buddhism and Culture	3②④		2		○			1					
		Hinduism and Culture	3②④		2		○							兼1	
		American Society and Culture	3②④		2		○							兼1	
		African Society and Culture	3②④		2		○							兼1	
		Field Research Practice	3②④		2			○						兼1	
		Ethnic Minorities and Their Cultures	3③④①		2		○							兼1	
		Art and Culture	3③④①		2		○							兼1	
		Gender and Contemporary Society	3③④①		2		○							兼1	
		Japanese Folk Culture	3③④①		2		○		1						
		Contemporary Japanese Culture	3③④①		2		○		1						
		Noto Field Work	3③		2			○						兼1	
		Globalization and Local Culture	3④④②		2		○							兼1	
		Thought and Culture	3④④②		2		○							兼1	
		Food and Culture	3④④②		2		○							兼1	
		Clothing and Culture	3④④②		2		○							兼1	
		Housing and Culture	3④④②		2		○							兼1	
		金沢文化演習	4①		2			○						兼1	
	観光学系	Tourism Studies	3①		2		○		1						
		Hospitality	3①		2		○			1					
		Leisure Studies	3②		2		○							兼1	
		Tourism Practice	3②		1			○						兼1	集中
		Tourism Culture Practice	3②		2			○						兼1	
		Tourism Industry	3③		2		○			1					
		Tourist Destinations and History	3③		2		○							兼1	
		Hospitality Practice	3③		2			○						兼1	
		Culture and Society in Tourism	3④		2		○							兼1	
		Tourism Policy	3④		2		○		1						
		Tourism and Regional Studies	3④		2		○							兼1	
		Tourism Management	3④		2		○			1					
		Tourism Information	4①		2		○			1					
		International Development	4①		2		○							兼1	
	英語学系	English Linguistics	2②③②		2		○		1						
		Practical English Grammar	2②③②		2		○		1						
		Interpretation Practice I	2②③②		2			○						兼1	
		Phonetics	2③③③		2		○							兼1	
		Business English I	2③③③		2			○						兼1	
		Translation Practice I	2③③③		2			○						兼1	
		Business English II	2④③④		2			○						兼1	
		Interpretation Practice II	2④③④		2			○						兼1	
		Translation Practice II	2④③④		2			○						兼1	
		Practice in English Linguistics	2④③④		2			○	1						
		Tourism English I	3①		2		○			1					
		English Teaching Methodology I	3①		2			○	2						オムニバス
		Tourism English II	3②		2		○			1					
		English Teaching Methodology II	3②		2			○	2						オムニバス
		English Teaching Methodology III	3③		2			○	2						オムニバス
		English Teaching Methodology IV	3④		2			○	2						オムニバス
		Cross-cultural Understanding	3④		2			○	1						
	小計(53科目)				105	0	—		6	4	0	0	0	兼15	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	アカデミック ライティング	Global Issues	2②3①②		2			○							兼3	
		Debate	2③3②③		2			○			1					
		Academic Writing	3③		2			○		1						
		Thesis Writing	3④4①②③		2			○		1						
		小計(4科目)		0	8	0	—			1	1	0	0	0	兼3	
	ゼミナール	Major Study Seminar I	3①②③	3				○		4	6					
		Major Study Seminar II	4①②③	3				○		4	6					
		Graduation Thesis	4④	2				○		4	6					
		小計(3科目)		8	0	0	—			4	6	0	0	0	0	
	専門科目合計(66科目)		—	20	113	0	—			6	6	0	0	0	兼15	
教職科目		教職入門(中等)	1③			2	○								兼1	集中
		教育学概論(中等)	2①			2	○								兼1	
		障害者教育	2②			2	○								兼1	
		教育心理学(中等)	2③			2	○								兼1	
		生徒・進路指導論(中等)	2③			2	○								兼1	
		道德教育の理論と方法(中等)	2④			2	○								兼1	
		教育相談の理論と方法(中等)	2④			2	○								兼1	
		教育社会学(中等)	3①			2	○								兼1	
		介護等体験(事前・事後の指導を含む)	3①			2		○							兼1	
		特別活動の理論と方法(中等)	3①			2	○								兼1	
		教育課程論(中等)	3②			2	○								兼1	
		教育方法論(中等)	3②			2	○								兼1	
		中等教育実習・事前事後の指導	3③4①			2		○							兼1	
		中等教育実習 I	3③			2			○						兼1	
		中等教育実習 II	3③4①			2			○						兼1	
		教職実践演習C(中・高)	4③			2		○							兼1	
		小計(16科目)	—	0	0	32	—			0	0	0	0	0	兼8	
		合計(133科目)	—	22	213	32	—			6	6	0	0	0	兼43	
学位又は称号		学士(人文学)		学位又は学科の分野			文学関係									

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部国際文化学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	ゼミナール	<p>大学生として教育・研究を行う上で必要な情報機器の知識、レポートの書き方などの基本スキルを身につけるとともに、地元石川・金沢の歴史、文化、自然及び産業の特徴を学修する。また、海外においては、日本にいる時と同様な意識で行動しては、危険を避けられない可能性が高くなる。様々なリスクを認識し、「自分の身は自分で守る」という自己責任の意識をしっかりと持ち、常に安全管理を行うことが必要である。</p> <p>本授業を通じて地元石川・金沢の理解を深め、海外渡航にかかるリスクと事前準備など留学をするために必要な知識を学修する。そして何よりも「なぜ留学する必要があるのか」この重要性を学び、学生一人一人に目的を持ってもらうことが狙いである。</p>	
	英語系	<p>(英文) Listening and speaking skills will mostly be taught, with a view to using such skills on a daily-life basis. As modern-day communication has become more text-based, communicational reading and writing skills will also be taught. Furthermore, the content of material used will include culture and education topics. On completion, students can give a straightforward description or presentation of one of a variety of subjects within their field of interest with reasonable fluency, presenting it as a linear sequence of points. The target score of this class is IELTS 4.5 or above.</p> <p>(和訳) 本授業は、日常生活でリスニングとスピーキングのスキルを使用する目的で、これら2つのスキルを学修する。現代のコミュニケーションはテキストベースとなってきたため、コミュニケーションのためのリーディングスキルやライティングスキルも学修する。その上、使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。この授業を終えると、学生は自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。本授業の目標値は、IELTS 4.5レベル若しくは、それ以上とする。</p>	
		<p>(英文) The course uses a book at the level of IELTS 4.5 for students' practice of vocabulary, phrases and sentences. Pre-intermediate level vocabulary will be combined with natural syntax structures, resulting in students gaining the ability to correctly form sentences and master straightforward English. Students commit a wide range of high-frequency idiomatic expressions and colloquialisms to memory, so, on completion, can access that knowledge in familiar situations. The content of material used will include culture and education topics.</p> <p>(和訳) 本授業は、学生の語彙、語句、文の反復練習用にIELTS 4.5レベルの書籍を使う。初中級レベルの語彙と自然な構文を組み合わせる適切な文を構成して英語が使えるようにする。学生は幅広い高頻度のイディオム表現や口語表現を暗記する。この授業を終えると、学生は身近な状況でその知識が使えるようになる。使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。</p>	
		<p>(英文) This class mainly gives students practice of IELTS. On completion, students can understand the information content of the majority of recorded or broadcast audio material on topics of personal interest delivered in clear standard speech. Also, they can scan longer texts in order to locate desired information, and gather information from different parts of one or more texts in order to fulfil a specific task. The target score of this class is IELTS 4.5 or above.</p> <p>(和訳) 本授業は、主にIELTSの問題を中心に学修を行う。この授業を終えると、学生ははっきりとした標準語で話された、個人的に興味がある話題であれば、録音され、放送された音声素材の大部分の情報の内容を理解できる。また、必要な情報を見つけるために長いテキストにざっと目を通し、テキストのさまざまな部分や別のテキストから、特定の課題遂行のための情報を収集できる。本授業の目標値は、IELTS 4.5レベル若しくは、それ以上とする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	英語系	Reading Skills I	<p>(英文) A large number of texts at the level of IELTS 4.5 will be read. Cultural and historical awareness will be developed through this process, along with information gathering skills. On completion, students can read straightforward factual texts on subjects related to their field of interest with a satisfactory level of comprehension.</p> <p>(和訳) 本授業は、IELTS 4.5レベルの英文を多く読みこなしていく。情報収集のスキルとともに、読解のプロセスを通して、文化的意識や歴史的意識を高める。この授業を終えると、学生は簡潔な事実関係の英文で、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、十分に主題を理解できる。</p>	
		Writing Skills I	<p>(英文) Students will develop a proper understanding of grammar, resulting in improved writing ability. On completion, they can write straightforward connected texts on a range of familiar subjects within their field of interest, by linking a series of shorter discrete elements into one linear sequence. Essay writing techniques will also be taught. The target score of this class is IELTS 4.5 or above. The content of material used will include culture and education topics.</p> <p>(和訳) 本授業は、英文法を正確に理解し、書くスキルを向上させる。この授業を終えると、学生は一連の短い別々になっている要素を一つの流れに結びつけることによって、自分の関心が及ぶ身近な話題について結束性のある簡単な英文を書くことができる。また、エッセイを作成するための技術を学修する。本授業の目標値は、IELTS 4.5レベル若しくは、それ以上とする。使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。</p>	
		Conversation Skills II	<p>(英文) Listening and speaking skills will mostly be taught, with a view to using such skills on a daily-life basis. As modern-day communication has become more text-based, communicational reading and writing skills will also be taught. Furthermore, the content of material used will include culture and education topics. On completion, students can give clear, detailed descriptions and give presentations about a wide range of subjects related to their field of interest, expanding and supporting ideas with subsidiary points and relevant examples. The target score of this class is IELTS 5.0 or above.</p> <p>(和訳) 本授業は、日常の生活でリスニングとスピーキングのスキルを活用する目的で、これら2つのスキルを学修する。現代のコミュニケーションはテキストベースとなってきたため、コミュニケーションのためのリーディングスキルやライティングスキルも学修する。その上、使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。この授業を終えると、学生は自分の関心のある分野に関連した、広範囲な話題について、明確かつ詳細に説明、プレゼンテーションができる。事項を補足しながら、関連事例を挙げて、主張を強化、展開することができる。本授業の目標値は、IELTS 5.0レベル若しくは、それ以上とする。</p>	
		Phrase and Expression Training II	<p>(英文) The course uses a book at the level of IELTS 5.0 for students' practice of vocabulary, phrases and sentences. Intermediate level vocabulary will be combined with natural syntax structures, resulting in students gaining the ability to correctly form sentences and master English used in personal and some vocational situations. On completion, students will have an active knowledge of frequently-used idiomatic expressions and colloquialisms, and be able to recognize some more specialized phrases and expressions. The content of material used will include culture and education topics.</p> <p>(和訳) 本授業は、学生の語彙、語句、文の反復練習用にIELTS 5.0レベルの書籍を使う。学生は中級レベルの語彙と自然な構文を組み合わせる適切な文を構成して英語が使えるようになり、日常生活や仕事の場面で使用される英語を習得する。この授業を終えると、頻繁に使用されるイディオム表現や口語表現に関する能動的な知識を有し、より特殊なフレーズや表現を認識できるようになる。使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	英語系	International Testing II	<p>(英文) This class mainly gives students practice of IELTS. On completion, students can understand radio documentaries and other recorded or broadcast audio material delivered in a standard dialect and can identify the speaker's mood, tone, etc. Also, they can quickly identify the content and relevance of news items, articles and reports on a wide range of professional topics, deciding whether closer study is worthwhile. The target score of this class is IELTS 5.0 or above.</p> <p>(和訳) 本授業は、主にIELTSの問題を中心に学修を行う。この授業を終えると、学生は標準語で話されているほとんどのラジオドキュメンタリーや、録音・放送された音声素材を理解できる。話し手の心情や調子などが聞き取れる。また、幅の広い専門的な話題についての情報や記事、レポートの内容やその重要度をすぐに見抜き、綿密な読解の価値があるかどうかを決めることができる。本授業の目標値は、IELTS 5.0レベル若しくは、それ以上とする。</p>	
		Reading Skills II	<p>(英文) A large number of texts at the level of IELTS 5.0 will be read. Cultural and historical awareness will be developed through this process, along with information gathering skills. On completion, students can understand articles and reports concerned with contemporary problems in which the writers adopt particular stances or viewpoints.</p> <p>(和訳) 本授業は、IELTS 5.0レベルの英文を中心に学修する。情報収集のスキルとともに、読解のプロセスを通して、文化的意識や歴史的意識を高める。この授業を終えると、学生は、筆者が特別な立場や視点から取り上げた、現代の問題に関する記事やレポートを理解できる。</p>	
		Writing Skills II	<p>(英文) Students will develop a proper understanding of grammar, resulting in improved writing ability. On completion, they can write clear, detailed texts on a variety of subjects related to their field of interest, synthesising and evaluating information and arguments from a number of sources. Essay writing techniques will also be taught. The target score of this class is IELTS 5.0 or above. The content of material used will include culture and education topics.</p> <p>(和訳) 本授業は、英文法を正確に理解し、書くスキルを向上させる。この授業を終えると、学生はいろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細な英文を書くことができる。また、エッセイを作成するための技術を学修する。本授業の目標値は、IELTS 5.0レベル若しくは、それ以上とする。使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。</p>	
		Conversation Skills III	<p>(英文) Listening and speaking skills will mostly be taught, with a view to using such skills on a daily-life basis. As modern-day communication has become more text-based, communicational reading and writing skills will also be taught. Furthermore, the content of material used will include culture and education topics. On completion, students can give clear, systematically developed descriptions and presentations, with appropriate highlighting of significant points, and relevant supporting detail. The target score of this class is IELTS 5.5 or above.</p> <p>(和訳) 本授業は、日常の生活でリスニングとスピーキングのスキルを活用する目的で、これら2つのスキルを学修する。現代のコミュニケーションはテキストベースとなってきたため、コミュニケーションのためのリーディングスキルやライティングスキルもまた学修する。その上、使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。この授業を終えると、学生は説明とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。本授業の目標値は、IELTS 5.5レベル若しくは、それ以上とする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	英語系	Phrase and Expression Training III	<p>(英文) The course uses a book at the level of IELTS 5.5 for students' practice of vocabulary, phrases and sentences. Upper intermediate level vocabulary will be combined with natural syntax structures resulting in students gaining the ability to correctly form sentences and master English phrases and expressions used in most vocational and social situations. On completion, students can have a personal knowledge of phrases and expressions, enabling them to give clear descriptions, express viewpoints and develop arguments, often without conspicuous searching for words. The content of material used will include culture and education topics.</p> <p>(和訳) 本授業は、学生の語彙、語句、文の反復練習用にIELTS 5.5レベルの書籍を使う。学生は中上級レベルの語彙と自然な構文を組み合わせ、適切な文を構成して英語が使えるようになり、仕事の場面や一般社会において使用される英語を習得する。この授業を終えると、学生はフレーズや表現に関する個人的な知識を有し、言葉を苦勞して探すことなく、はっきりと状況を説明し、考えを述べ、論を展開することができる。使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。</p>	
		International Testing III	<p>(英文) This class mainly gives students practice of IELTS. On completion, students can understand recordings in a standard dialect likely to be encountered in social, professional or academic life, and identify speaker viewpoints and attitudes as well as information content. Also, they can scan quickly through long and complex texts, locating relevant details. The target score of this class is IELTS 5.5 or above.</p> <p>(和訳) 本授業は、主にIELTSの問題を中心に学修を行う。この授業を終えると、学生は、社会、専門、学問の世界で普段出会うもので、標準語で録音されたものは理解できる。また、情報の内容だけでなく、話し手の視点や事柄に対する姿勢が聞き取れる。また、ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。本授業の目標値は、IELTS 5.5レベル若しくは、それ以上とする。</p>	
		Reading Skills III	<p>(英文) A large number of texts at the level of IELTS 5.5 will be read. Cultural and historical awareness will be developed through this process, along with information gathering skills. On completion, students can read with a large degree of independence, adapting style and speed of reading to different texts and purposes, and using appropriate reference sources selectively.</p> <p>(和訳) 本授業は、IELTS 5.5レベルのテキストを多く読みこなしていく。情報収集のスキルとともに、読解のプロセスを通して、文化的意識や歴史的意識を高める。この授業を終えると、学生は適切な参考資料を選択して使いながら、さまざまな目的や英文の種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら、独力でかなりのところまで読み解ける。</p>	
		Writing Skills III	<p>(英文) Students who complete this class can write clear, detailed descriptions of real or imaginary events and experiences, marking the relationship between ideas in clear connected text, and following established conventions of the genre concerned. Also, they can write clear, detailed descriptions on a variety of subjects related to their field of interest. The target score of this class is IELTS 5.5 or above. The content of material used will include culture and education topics.</p> <p>(和訳) 学生は、実際、もしくは想像上の出来事や経験について、複数の見解を相互に関連づけ、当該のジャンルの規範に従って、明瞭かつ詳細に記述文を書くことができる。また、自分が関心を持つさまざまな話題について、明瞭、詳細に書くことができる。本授業の目標値は、IELTS 5.5レベル若しくは、それ以上とする。使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	英語系	Conversation Skills IV	<p>(英文) Listening and speaking skills will mostly be taught, with a view to using such skills on a daily-life basis. As modern-day communication has become more text-based, communicational reading and writing skills will also be taught. Furthermore, the content of material used will include culture and education topics. On completion, students can give clear, detailed descriptions and presentations on complex subjects. The target score of this class is IELTS 6.0 or above.</p> <p>(和訳) 本授業は、日常の生活でリスニングとスピーキングのスキルを活用する目的で、これら2つのスキルを学修する。現代のコミュニケーションはテキストベースとなってきたため、コミュニケーションのためのリーディングスキルやライティングスキルについても学修する。その上、使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。この授業を終えると、学生は複雑な話題について、明瞭かつ詳細な説明やプレゼンテーションができる。本授業の目標値は、IELTS 6.0レベル若しくは、それ以上とする。</p>	
		Phrase and Expression Training IV	<p>(英文) The course uses a book at the level of IELTS 6.0 for students' practice of vocabulary, phrases and sentences. Advanced level vocabulary will be combined with natural syntax structures resulting in students gaining the ability to correctly form sentences and master English phrases and expressions used in academic and unfamiliar situations. On completion, students can exploit a comprehensive personal database of phrases and expressions, and express themselves clearly without much sign of restriction. The content of material used will include culture and education topics.</p> <p>(和訳) 本授業は、学生の単語、語句、文の反復練習用にIELTS 6.0レベルの書籍を使う。学生は、上級レベルの語彙と自然な構文を組み合わせる適切な文を構成して英語が使えるようになり、専門的な場面やなじみのない場面で使用される英語のフレーズや表現を習得する。この授業を終えると、学生はフレーズや表現に関する個人の総合的な知識を活用し、あまり制限されることなく、はっきりと自己表現できるようになる。使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。</p>	
		International Testing IV	<p>(英文) This class mainly gives students practice of IELTS. On completion, students can understand a wide range of recorded and broadcast audio material, including some non-standard usage, and identify finer points of detail including implicit attitudes and relationships between speakers. Also, they can scan quickly through long and complex texts, locating relevant details. The target score of this class is IELTS 6.0 or above.</p> <p>(和訳) 本授業は、主にIELTSの問題を中心に学修を行う。この授業を終えると、学生はいくつか非標準的な表現があっても、録音され、放送された広範囲な音声素材を理解できる。事柄に対する話し手の、言葉に表れない姿勢や、話し手の間の関係など、細かい点が聞き取れる。また、ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。本授業の目標値は、IELTS 6.0レベル若しくは、それ以上とする。</p>	
		Reading Skills IV	<p>(英文) A large number of texts at the level of IELTS 6.0 will be read. Cultural and historical awareness will be developed through this process, along with information gathering skills. On completion, students can, if allowed to reread difficult sections, understand complex texts, regardless of whether or not they relate to students' own areas of speciality.</p> <p>(和訳) 本授業は、IELTS 6.0レベルのテキストを中心に読みこなしていく。情報収集のスキルとともに、読解のプロセスを通して、文化的意識や歴史的意識を高める。この授業を終えると、学生は長くて複雑な英文でも、難しい節を繰り返して読めるのであれば、自分の専門に関係がなくても、中身を理解できる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	英語系	Writing Skills IV	<p>(英文) Based on contents learned in Writing Skills III, students will learn to write more academically oriented essays by composing a paragraph of three parts: the topic sentence, body sentences, and the concluding sentence. On completion, they can write clear, well-structured texts on complex subjects, underlining the relevant salient issues, expanding and supporting points of view at some length with subsidiary points, reasons and relevant examples, and rounding off with an appropriate conclusion. The target score of this class is IELTS 6.0 or above. The content of material used will include culture and education topics.</p> <p>(和訳) 本授業は、Writing SkillsⅢで学習した内容を基に、主題部、本体部、結論部からなるパラグラフを構成しながら、よりアカデミックなエッセイ作成の学修を行う。この授業を終えると、学生は複雑な話題について、明瞭にきちんとした構造を持った英文を書くことができる。関連性のある重要点を強調して、補助的事項、理由、関連する詳細な事例を付け加えて、論点を展開し、それを維持していくことができる。最後に、適切な結論で終わることができる。本授業の目標値は、IELTS 6.0レベル若しくは、それ以上とする。使用される教材の内容には教養に関するトピックが含まれる。</p>	
	人文系	哲学/Philosophy	<p>(英文) Philosophy is considered as an activity which introduces a new understanding on the human being through a new worldview. It has been continuing since ancient Greece, where we can find a number of people who examined the way we live, the purposes which underlie actions, and essential aspects of society and state. Later on, in the modern period, philosophers reexamined the certainty of natural science and human knowledge. Philosophers also sought a new understanding of state that had changed and become more complex. Moreover, they developed the philosophy of history. This class introduces contemporary philosophical issues as well as the previously mentioned points.</p> <p>(和訳) 哲学は、新しい世界観を通じて、新しい人間観を生み出そうとする知の営みであり、その営みは古代より現代まで続いている。古代ギリシャの時代から、どう生きるか、何を目的に行動するか、社会や国家とはどんなものかについて真剣に考えた人々がいた。また科学が発達した近代では、科学や人間の知識の確実性などを見つめ直した人々がいた。さらに人口が増え複雑化した社会や国家が改めて捉え直されたり、歴史とは何かが問われたりもした。本授業は、これらの論点のうち、現代日本の学生にとり重要な点を取り出し考えることが目的である。</p>	
		英米文学/English and American Literature	<p>(英文) This course deals with English literature, focusing on Victorian novels, and explains the stories of famous novels and introduces the results of research on literary interpretation. Students also learn the social background in which such works were produced. The course intends to teach social, cultural and literary significance of the novels, with a full understanding of the authors' upbringings and personalities. In other words, the purpose of this course is to learn, through the study of literary works, the social, historical and cultural characteristics of countries culturally influenced by Britain and the United States.</p> <p>(和訳) 本授業は、主に19世紀ヴィクトリア朝期の小説を中心にイギリスの文学を扱い、有名な小説のストーリー展開の説明や、作品解釈についてこれまでの研究成果の紹介をする。また、当該作品を生み出した社会的背景についても学修する。作者の生い立ち、人となりを踏まえて、作品の社会的・文化的・文学的意義を学ぶことを意図としている。すなわち、文学作品を通して、イギリス及び英米文化圏の社会・歴史・文化の特徴を学修する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文系	宗教学 /Religious Studies	<p>(英文)</p> <p>Religion continues to move the hearts of a great many people around the world, and still, the value and importance of religion is not always sufficiently understood in contemporary Japan. Religion plays a major role in many of the conflicts, even wars, that occur on a global scale in the world of today. In Japan, religious traditions deeply rooted in history continue to influence the culture, values and ways of thinking of modern society in an essential manner. Therefore, the study of religion is an indispensable prerequisite for understanding human culture in the modern world, an important step in the process towards a meaningful internationalization. At the same time, it provides essential background knowledge for discerning the unique aspects of Japanese culture. With this in mind, we will take a fresh look at various religions worldwide, in their past, present, and future.</p> <p>※平成29年は英語授業 (③ 小西 賢吾) が担当</p> <p>(和訳)</p> <p>現代日本において、宗教の意義・重要性は必ずしも、十分には理解されているとは言えないが、宗教は依然として世界の多くの人々の心を動かしている。国際的な対立や紛争の背景に宗教的信仰の差異に基づくものが少なくない。その上、日本には宗教活動の長い伝統があり、私たちの心にぬぐいきれない大きな影響を残している。宗教について学ぶことは、現代世界の人類の文化的活動の意義を理解する上で不可欠なものであり、国際化への重要な一歩であるとともに、日本人として生きる私たち自身を知る手がかりをも与えてくる。本授業は、キリスト教、イスラム教及び仏教それぞれの視点から宗教の歴史と今日的意義を学修する。</p> <p>※平成28年・29年は日本語授業 (30 小磯 千尋) が担当</p>	オムニバス方式
			<p>【英語授業】</p> <p>(9 高橋 優子 キリスト教/5回)</p> <p>The classes concerning Christianity explain the basic beliefs of Christians including the dialectic of love and justice.</p>	
			<p>(40 川本 智史 イスラム教/5回)</p> <p>To know about Islam may be essential for us to understand the globalizing modern society. This class aims that students learn about the characteristics of Islam such as diversity and universality through the obtaining basic knowledge on Islam.</p>	
			<p>(10 Bayer, Achim Uwe 仏教/5回)</p> <p>Among the world religions, Buddhism plays a major role in our everyday life as an element of the traditional culture of Japan as a whole and of Kanazawa in particular. and the Isikawa region. Furthermore, the regions from central Asia to Japan and Indonesia were formerly united by a common adherence to Buddhism. In these five classes, we will look at the essential points of Buddhist culture, thought and history, with a particular focus on Buddhist culture in Kanazawa and Japan as a whole.</p>	
			<p>(平成30年よりオムニバス方式/全15回)</p> <p>【日本語授業】</p> <p>(9 高橋 優子 キリスト教/5回)</p> <p>キリスト教について基本的と考えられる要素をいくつかとりあげて解説し、キリスト教の基本的信条を理解することを目指す。救済宗教としてのキリスト教における「愛と正義の弁証法」などを扱う。</p>	
			<p>(11 小河 久志 イスラム教/5回)</p> <p>イスラームについて知ることは、グローバル化が進む現代社会を理解する上で必須です。この授業では、イスラームに関する基礎知識を獲得することで、多様性と普遍性というイスラームが持つ特徴について学びます。</p>	
			<p>(10 Bayer, Achim Uwe 仏教/5回)</p> <p>世界の宗教のうち、仏教は我々の日常生活において、日本全国と金沢の伝統文化の要素として、非常に重要な役割を占める。また、中央アジアから日本、インドネシア等に至る国々はかつて、共通に仏教を信仰する文化圏であった。本講座の5つの授業では、仏教の文化、思想、歴史の要点を考察するとともに、特に金沢と日本全国の仏教文化について重点的に取り組む。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文系	文化人類学 /Cultural Anthropology	<p>(英文) Cultural Anthropology is the study of the social and cultural aspects of humanity, as different from physical anthropology that studies evolutionary and biological aspects. Culture is not only special features of human activities such as art and music; but it means all aspects of our daily lives, including ways of thinking and behavior. We acquire native culture as we grown up in certain society. Then, global society is a space where various cultures encounter, conflict, and co-exist. In this class, we will learn basic concepts and study methods of cultural anthropology by seeing case studies on different areas in order to adequately understand multicultural society in the contemporary world. Also, field work, or experiential investigation which characterizes this discipline will be introduced.</p> <p>(和訳) 人類の進化や生物学的側面を研究する自然人類学に対して、文化人類学は人類の社会的・文化的側面を研究する分野である。文化とは、音楽や芸術などの特定の分野ではなく、考え方や行動など、日常生活のすべての側面を意味している。われわれ人間は、社会の中で成長し、大人になる中でそれぞれの文化を身に付けていく。そしてグローバル化社会とは、様々な文化が出合い、対立し、共生する空間でもある。本授業では、現代の多文化社会を的確に理解するために、文化人類学の基本的な考え方と研究方法を、様々な地域の事例を素材として学修する。その中で、文化人類学の特徴である経験的調査法「フィールドワーク」についても紹介する。</p>	
		人文地理学 /Human Geography	<p>(英文) The purpose of this course is to gain basic knowledge of human geography through lectures on basic concepts and technical terms of human geography. In addition, students learn the way of analyzing a particular region with geographical analytic methods and they also learn the way of understanding its regional characteristics. In particular, students will be able to: ① learn about history of geography and understand the characteristics of human geography, ② gain basic knowledge of human geography, and understand its perspective and geographical way of thinking, ③ acquire skills to utilize this knowledge through practice.</p> <p>(和訳) 本授業は、地理学における人文地理学の位置付けや、人文地理学に関わる基礎的な用語や概念等の解説を通じて、人文地理学的なものの見方・考え方を理解させることが目的である。また、身近な地域を地理学的視点から分析し理解する応用力を身に付けさせることも目的である。具体的には①地理学史を学び、地理学とは、またその中で人文地理学とはどのような分野かを理解する、②人文地理学の基礎的な知識とともに人文地理的なものの見方・考え方を理解する、③学んだ知識や方法を用いて、大学周辺地域の特徴や問題を発見し考察する作業を行い、応用力を学修する。</p>	
		異文化コミュニケーション論/Intercultural Communication	<p>(英文) In the age of globalization, the importance of intercultural communication has enormously increased. In this course, students will learn basic viewpoints for considering the problem of understanding others from different cultures by focusing on cultural features behind communication in various case studies. Culture influences every aspects of human life; we will discuss that intercultural communication is not limited to foreign culture but essential for understanding close people with different cultural backgrounds such as region, generation, gender and so on.</p> <p>(和訳) グローバル化が進展する現代にあって、異文化コミュニケーションの重要性はますます高まりつつある。本授業は、コミュニケーションの背後にある文化的要素に注目して、具体的な事例から、文化の異なる他者を理解するとはどういうことかを考える基本的な視点を身につけることを目的とする。文化は人間が生きる上でのあらゆる場面に影響している。この観点にたてば、異文化コミュニケーションとは外国文化にとどまらず、国内の地域、世代、性別など、異なる価値観を持った身近な人びとを理解することにもつながることを学修する。</p>	
		日本文学	<p>本授業は、日本古典文学の伝統的な韻文形式である短歌と俳句の世界について学修する。短歌は、万葉時代に成立した五七五七七＝五句三十一音の定型による自由主題の叙情詩。俳句は、江戸時代に成立した五七五＝三句十七音節の定型による季語を含んだ即興詩。明治時代には正岡子規が短歌・俳句の革新運動を行ったが、現代でも愛好者は絶えることなく、新聞の文芸欄には選定された短歌と俳句が併載されている。また、日本文学を学ぶ外国人の教材となって翻訳されることも多い。一般的に親しまれている各作品は、藤原定家撰『百人一首』と松尾芭蕉著『おくのほそ道』であるが、これらを解釈・鑑賞しながら作品世界の感動を追体験する。更に、折に触れ属目の題材や感慨を韻律定型で詠めるよう指導する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文系	歴史学	本授業は、歴史的な視点を通して、社会を認識する力を身に付けることが目的である。歴史に対する興味や関心を芽生えさせ、歴史を学ぶ意味や意義を自分自身の問題として受け取り、自覚することを学修する。歴史という学問分野は、「身近」という具体的な切り口が活用できるため、主に日本並びに東アジアの地域史を対象とする。	
		心理学	心理学は、主に人間を研究対象にしている学問であり、私たちにとって最も身近な学問である。人間として生まれ、社会生活を営むようになれば、無意識のうちに心理学を受け入れていると言える。本授業は、心理学の基礎を学ぶとともに、自分自身の行動や人間関係の理解について心理学的な考えを深くすることが目的である。具体的には、①人間の感覚、知覚、注意、記憶、学習、思考などについて学び、②心の生物学的基盤としての脳と心との関係について理解し、③他者による影響と他者の認知、心と社会の関係、及び人間とモノとコトとの関係などについて心理学的な考えを深める。	
		論理学/Logic	(英文) This course introduces basic techniques of human reasoning. They include techniques for analyzing statements and evaluating arguments, primarily through use of the apparatus of modern symbolic logic. When we try to reason well, we are supposed to make valid inferences that follow from what we already know. In connection with this, this course introduces methods for validity testing. Students' learning focuses mainly on fundamental components of propositional logic, but also includes some predicate logic concepts. (和訳) 本授業は、人間が推論をするに当たっての基本的な技法を紹介する。記号論理学の助けを借りて、主張を分析したり、議論を評価したりすることを学修する。推論するときは、私たちが既に知っていることから導かれる妥当なものを目指すべきだが、推論が妥当かどうかを調べる方法をこの授業で学修することができる。命題論理学が主になるが、述語論理学もいくつか学修する。	
		倫理学/Ethics	(英文) Tetsuro Watsuji, a representative Japanese philosopher, understood ethics as a study of "interrelationship (aidagara)." Human beings cannot live apart from societies and groups, though they sometimes may be stressed there. This class is concerned with appropriate rules for societies, and how they can be justified in some way in the society or group which they belong to. Students will have opportunities to think about these issues while considering the ideas of great thinkers and contemporary problems. (和訳) 倫理学とは「あいだがら」の学だ、と日本を代表する哲学者・倫理学者の一人である和辻哲郎は定義した。人は社会や集団の中で生きることによってストレスを溜めることもあるが、これらから離れては生きていけない。その中で、どのような決まりごとを守らなければならないのか。決まりごとやルールがあるとしたら、それらはなぜ少なくとも自分たちの社会や集団の中で正しいものだといえるのか、本授業は、こうした問いかけについて、過去の偉大な思想家たちの議論を参考にし、また現代の具体的な問題にも絶えず触れながら学修する。	
	社会系	経済学/Economics	(英文) Economic behaviors such as producing, consuming, and storing daily necessities are essential for people to live and participate in social activities. Economics deals with the economic activities of people and companies, as well as market conditions. As an introduction to economics, this course provides basic frameworks for analyzing economic activities and market conditions, and helps students to use technical terms properly and analyze economic problems. (和訳) 人が生活し、社会的に活動することには、人間の生存に必要な物的な富を生産し消費し交換し明日に備えて蓄えるという経済行動が不可欠である。経済学は、社会を構成する個人・企業及びその取引である市場の関係を研究する。本授業は、経済学の基礎を学ぶ。すなわち、消費者の身の周りに存在する様々な問題について、経済学的視点で考える。また、それぞれの行動原理を分析するフレームワークを提供し、その後、経済学的専門用語を正しく使用して経済的諸問題の分析に取り組める力を修得する。	
		日本国憲法	国家権力を制限し、国民ひとりひとりの人権を守るための我が国の最高法規が「日本国憲法」である。本授業は、日本国憲法で保障されている「人権」の種類、人権を制限する根拠、人権の内容（特に表現の自由と営業の自由）及び「統治」（三権分立、特に国会・内閣・裁判所の各機関の機能と役割）について学修する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	社会系	社会調査論	われわれが生きている社会、また世界の多様な人びとが生きている社会を、様々な角度からとらえ、研究の題材とするための基本的な調査方法について学修する。社会学や人類学、経済学、政治学、心理学など、社会を対象とする多くの学問分野では、様々な社会調査の方法が開発され、発展してきた。この講義では、社会と、そこで暮らす人びとの文化にせまるための調査方法を紹介し、その特徴や課題について検討する。そして、自分の関心にあわせて適切な方法を選択し、調査を企画・設計できるようになるための基本的な知識と姿勢を身に付ける。 なお、この科目は、「専門科目」の「発展科目」「比較文化学系」の「Field Research Practice」「Noto Field Work」及び「金沢文化演習」の受講に際しての履修要件科目である。	
		観光論入門/Tourism	(英文) Tourism plays an increasingly significant role in modern society. In other words, tourism has been essential in order to understand the modern society. In this class, student will come to understand that tourism has important implications for our diversity society, while considering interdisciplinary aspects of tourism theory. (和訳) 現代社会においてツーリズムの位置付けはますます大きなものになっている。言い換えれば、現代社会を理解するためにツーリズムは欠かせない。そのため、履修者は本講義を通じて社会におけるツーリズムの多様な関わりを理解するとともに、ツーリズム論の学際的な側面を理解することをねらいとする。	
		法学	超高齢化の進展、急速なIT化、憲法改正の動き等で、今日、日本社会はかつて経験したことのない速度で変化している。この変化に対応して人間の福祉を維持・確保するのが法の役割である。本授業は、法はどのような原理・原則に基づいて私達の生活を規律するのか、これを解明することが目的である。具体的には、①日本国憲法の基本原則を理解する、②法の歴史をグローバルな視点で理解する、③法と経済や法と政治との関係など、隣接分野との関係についても学修する。	
		政治学	本授業は、(1)戦後日本の主要な政治アクターや制度に関する基本的な知識の整理、(2)戦後政治のあり方、(3)政治と市民の関わりを取り上げる。学修目標は、現代日本政治に関する基本的な知識の習得に加え、市民と政治の関わりについて受講者が興味をもち、自分で考えるようになることである。本授業を通じて、社会の一員として、自覚的に政治を考えることが目的である。	
		経営学	本授業は経営学を初めて学ぶ人のための入門レベルとして、経営学の基礎概念を修得する。講義では経営、経営学の全体像、経営戦略、組織、新製品のマネジメントを中心に学んでいく。経営戦略、組織などビジネスにも役立つ経営学における基礎的な概念・用語を理解し、説明できるようになることが目的である。	
		社会学	社会学は、人間が日々営んでいる生活において形成される集団や社会を研究し、社会的存在としての自分自身の行動を考え、理解することを目指すとしている。科学技術による自然破壊をはじめ、深刻な国家間や民族間、あるいは階級間の緊張関係が顕著で、しかも変化の激しい時代である。このような時代に生きる我々には、自らの運命を切り開き主体的にアプローチしながら、生活をより良きものに作り変えていく可能性を秘めているともいえる。本授業は、人間と文化の統一性と多様性、個人と社会との相関性を取り上げ、様々なテーマに沿って概説的に論じ、社会学的なものの見方を深めていくことが目的である。	
		コミュニケーション概論	「コミュニケーション」を一言で述べることは困難である。『伝える』と『伝わる』をキーワードにもつ。つまり、『伝える』ことだけではなく、必ずしも意図的ではなく、いわば勝手に伝わってしまうものも、コミュニケーションに含まれる。コミュニケーションは我々人間が快適に生きていくために無くてはならないものである。本授業は、人と人、人と動物、人と機械・システム、機械・システムと機械・システムのコミュニケーションを学び、理想のコミュニケーションを模索することが目的である。また、大学生活や就職活動等に役立ててもらえるようにする。	
	自然系	基礎数学	文系の学生であっても、数理的思考能力は必要で、そのような力を養うことを主たる目的として本授業は設置されている。実際、現代社会の様々な現象は数学的手法を用いて記述され、表現され、分析され、解明を図られている。特に経済系分野では数学的手法の活用が重要度を強めており、必ず修得が必要となっている。本授業は、経済系分野で必要最低限度の数理的知識と活用方法を学修する。範囲は、1次関数・2次関数・不等式と領域・指数関数・数列等とする。	
		情報リテラシー	情報社会で重要な能力は、情報収集、情報の表現と発信、そしてコミュニケーションである。情報収集では、キーワード検索などのノウハウによる収集だけでなく、データや情報を正しく分析したり見極めたりする能力がより求められる。情報の表現と発信では、いろいろなメディアやチャネルを使って、伝えたい情報を分かりやすく表現し、確実に相手に伝えることが重要である。こうした情報収集力と情報発信力を組み合わせることで、さらにコミュニケーション能力を高められるようになる。このとき忘れてならないのは、情報端末からネットワークを介した先には人間がいるということであり、また、情報機器は道具として利活用するものであるということである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	自然系	情報学	本授業では、データと情報、情報処理、通信とネットワーク、データベース、及びコンピュータの構成など、情報システムに関する基礎的な事項について講述し、また、人間と情報処理との関係について論議し、さらに、情報科学の基本的な理論やプログラミングの方法にも触れる。データや情報をどのように捉え、どのような処理があつて、また、どのように処理していけばよいのかに関して、人間と情報システムの両面から考えながら、情報の流れを支える情報通信技術や情報処理システムを用いた情報の活用方法や実情についても考えていく。	
		統計学	<p>統計学の内容は、大別すると記述統計（データを整理・可視化して直接分析に用いる方法）と推測統計（整理されたデータに確率論を応用することで、母集団全体の特徴の推測を行う方法）の2つに分類される。前半に記述統計の解説を行い、確率についての考え方を挟んで推測統計の解説を行う。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （39 石野 卓也・42 花田 真一/1回）（ガイダンス：共同担当、第1回講義） 第1回の講義は担当者が共同で全体のガイダンスを行う。数字のデータを扱う目的は何か、統計学を学ぶことでどのような分析ができるようになるか、応用例を交えながら解説する。併せて前半と後半の講義の構成や担当者の分担についても説明する。</p> <p>（42 花田 真一/7回）（記述統計：第2～8回講義） 前半は、データを整理・可視化し直接分析に用いる「記述統計」を中心に講義を行う。度数分布表やヒストグラムを用いたデータの図示、平均や分散といったデータの代表値の計算と意味、歪度や尖度を用いたデータの分布の分析、相関や共分散といった2変数の関係の指標等について適宜演習を行いながら解説する。</p> <p>（39 石野 卓也/7回）（推測統計：第9～15回講義） 後半は、確率論の考え方にに基づき、標本から母集団の性質を推定する「推測統計」について講義を行う。まず、確率論の基礎概念について確認し、正規分布の概念について解説を行う。その上で、大数の法則や標準正規分布が大きな役割を果たす中心極限定理について学び、これを用いて母集団の性質についての仮説検定を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		自然科学概論	現代社会は科学技術を基盤として成立しているにもかかわらず、その科学・技術そのものについて関心を持って暮らしている人は多くはない。本授業は、科学（理系科目）が苦手、科学に関心を余りもったことがない人たちに「科学とはどのような学問で、どのような性質をもつ営みなのか」を分かりやすく伝えることを目的とする。具体的には、科学の発展の歴史をたどることから始めて、科学と技術との違い、現代社会と科学の接点などについて例を挙げながら学修する。	
		環境学	本授業は環境科学の中で、特に自然環境に関連した諸問題を重点的に扱う。自然環境は無機的环境だけで成り立つものではなく、多様な生物が相互に作用し合っている集団がその無機的环境と一体となって相互作用系を構成している。この理解は人間活動に起因する環境問題を捉えてゆく上で最も重要な視点である。本授業は、まず、自然環境の成り立ちや仕組みを理解し、その上で、現代社会が抱えている環境問題の諸相とその人為的要因を学修する。	
		自然地理学	本授業は、地球の自然環境を構成する気圏・地圏・水圏・生物圏に対応した自然地理学の諸領域である気候学・地形学・水文学・地生物学（生物地理学）について、基礎的な知識を体系的に学修する。特に、中学校社会科・高等学校地歴科免許取得に必要な「自然地理学」に対応することを指向したカリキュラムを構成しており、幅広い知識を取得できるようにしてある。また、現代のかつ世界的な課題である環境問題への意識を高めることも意図している。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	スポーツ系	健康科学演習	本授業では、自己の健康の維持・増進はもとより、習慣的な運動の必要性について学修する。また生涯を通して運動・スポーツを継続的に行動おうとする資質を身に付けることを目標とする。具体的には、様々な運動種目を通じて、最低限、運動を楽しむための基本的な技術を習得し、他者と関わりながら共に運動・スポーツを楽しめるよう、ソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを磨いていく。また運動・スポーツや健康に関する基礎的な理論に基づきながら、学修する。	
		スポーツ科学演習	<p>ヒトの身体は運動刺激に対して、正の方向にも負の方向にも非常に高い適応可能性をもっており、運動時には安静時と極めて異なる反応が体内でたくさん生起している。子供から高齢者に至るまでのヒトの身体の発達と発育の仕組みについて理解することは、保育や教育を志向する者のみならず現代社会に生きる全ての者が基本的に修得しておくべき学習内容である。</p> <p>本授業は、いくつかの身体運動・スポーツ活動を題材としながら、運動時のエネルギー供給機構や身体組成、筋力の発揮様式、身体的健康の維持増進のためのトレーニング、ダイエットや痩身願望などについて、自己の身体を実習材料にして学修する。</p>	
		健康・スポーツ科学概論	現代社会において、スポーツの意義は益々大きくなりつつある。スポーツマンシップに代表される公的領域としてのグローバルな人類の共通価値はスポーツの重要な使命である。また現代のトップスポーツは医科学的手法を取り入れなければ、もはや勝利を獲得することが困難であり、技術、体力、戦術などに日進月歩の進化が見られる。本授業は、スポーツ生理学、心理学、社会学、教育学、バイオメカニクス、コーチングなどスポーツに関する基礎知識を習得し、スポーツ医科学での学習・研究の指針を修得することが目的である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	比較文化	世界各地の人々は、独自の生活習慣や規範、家族、社会関係、ジェンダー観、タブーや宗教・世界観など、それぞれ固有の文化的背景のもとで生きている。本授業は、比較文化研究の概論として、地球上の欧米社会や先住民社会などの多様な民族文化に関する文化人類学研究の事例をもとに、比較文化の視点から民族文化にみる多様性と共通性、文化のもつ意味について理解し、異なる文化の尊重を可能とする相対的文化理解ができるように指導する。また、本授業は、変化し続ける世界の中で、各地域の人々が自分たちの文化的価値を維持するとともに再創造を試みている点に関する理解を深め、深層文化のもつ重要性についての理解を育む。	
		ワールドトピックス	本授業は、世界各地のライフスタイル、風習、政治の仕組み、経済開発、環境の変化といった話題を、最新の新聞・ニュース及び社会の民族誌研究などの多様な素材から取り上げて論じる。学生はこうした話題を英語で考え、話し合うための用語やフレーズを学び、また、それぞれの話題の歴史的・文化的背景を知ることによって、話題どうしが互いに関連しており、異なる地域に住む人々が相互に依存していることを学修する。	
		日本社会と文化	本授業は、文化人類学的アプローチを用いて、日本社会と文化を概説する。家族、コミュニティ、年中行事、ライフサイクル・イベント、ジェンダー、民族的多様性、会社と仕事、芸術等の話題に触れながら、日本の社会と文化の多様性と独自性について学修する。	
	基幹科目	Studies on Multicultural Symbiosis	(英文) Today, in the globalized world, the cross-border movement of people and goods has been accelerating. As a result, a dynamic relations such as cooperation and opposition occur among the people with different cultural backgrounds in various regions of the world. A similar situation can be seen in Japan. At this class, students learn the major theories of the multicultural symbiosis which will be more important in future. Then they think about the ways to create an affluent society with the people having different cultural backgrounds. (和訳) グローバル化が進む今日、国境を越えたヒトやモノの移動が加速化しています。その結果、世界各地で、異なる文化的背景を持つ人々のあいだに対立や連携といったダイナミックな関係が生まれています。それは日本においても同じです。この授業では、今後重要性を高めていくであろう多文化共生論の主要な論点を学びます。そのうえで、異なる文化的背景を持つ人々と豊かな社会を実現するための方策について考えます。	
		Language and Culture	(英文) Since what is commonly known as the Sapir - Whorf hypothesis is pointed out that language influences the formation of the perception of the community which uses the language, and that consequently, each society came to have a unique world view. The issue of language and culture has become one of the major research fields in cultural anthropology. This course deals with how language influences the way people perceive and categorize the world surrounding them: nature, illness, ethnicity, gender, social relation and hierarchy, and super-nature. This also provides to understand the arbitrariness of language, an etic standpoint - the understanding of a culture by universal concepts beyond the given culture, and an emic standpoint - the understanding of a culture by the system of knowledge and behavior that is unique to the given culture. (和訳) 言語は人間に対して経験のしかたを規定する働きをもつというサピア・ウォーフの仮説が提出されて以来、言語と文化の問題は文化の理解における重要なテーマの一つとなってきた。本授業は、言語が外界に対する人々の認識の在り方やカテゴリー化にいかに関与を与えるのか、また社会的文化的変化が言語にいかに関与を与えるのかについて学修する。とくに、文化的基盤と「ことば」の関係などについて、自然認識、民族性、性差、社会関係、階層性、疾病観などの観点から学習するとともに、「ことば」の恣意性、エチック（普遍的）なことばのあり方、イーミック（個別的）な理解の仕方を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基幹科目	Religion and Culture	<p>(英文) Religion and culture are deeply interconnected, and are therefore often hard to separate. Keeping this in mind, students will learn about the causal mutually-influencing relationships they exhibit.</p> <p>(和訳) 宗教と文化は深く絡み合っており、それらを明確に分離することは困難である。これを念頭におきつつ、両者の相互影響関係を把握することを目標とする。(オムニバス方式/全15回)</p> <hr/> <p>(9 高橋 優子 キリスト教/5回)</p> <p>(英文) Generally speaking, Christianity has two main streams: Catholicism and Protestantism. These streams show very different patterns of influence on culture and society. Similarities and differences in Catholicism and Protestantism will be explained.</p> <p>(和訳) キリスト教には大きく分けてカトリシズムとプロテスタンティズムがある。この二つの流れは社会・文化に対する影響という点で大きく異なるパターンを示す。この二つの共通点と相違点について学修する。</p> <hr/> <p>(11 小河 久志 イスラム教/5回)</p> <p>(英文) During the process of its power expansion, Islam, born in the Arabian Peninsula, had a great influence on culture in various regions of the world. In this class, students learn relationships between Islam and culture as well as its dynamics through various case examples.</p> <p>(和訳) アラビア半島で生まれたイスラームは、拡大の過程で各地の文化に多大な影響を与えてきました。この授業では、さまざまな事例を通して、イスラームと文化の関係性とその動態について理解します。</p> <hr/> <p>(10 Bayer, Achim Uwe 仏教/5回)</p> <p>(英文) Buddhism is said to have influenced central aspects of Japanese culture, with a focus on simplicity and austerity. With these elements, Japanese esthetics have become world famous, embodied in Japanese food, gardening, architecture, music and, more recently, industrial and virtual design. For example, when the global consumer electronics producer Apple Macintosh was suffering losses in the mid-nineties, its manager Steve Jobs changed its course overnight by reverting to radically simple esthetics which he explicitly claimed to draw on Japanese Buddhism, and consequently became one of the most celebrated managers of our time. This is just one of the many examples in which the thoughts and the practices of Buddhism have concretely affected our everyday culture, and we will study the mutual relationship between Buddhism and culture in more detail in this course.</p> <p>(和訳) 日本文化は様々な面で仏教の影響を受けていると言われる。素朴や厳格を重視する日本の美意識は世界中で定評があり、日本の料理、園芸、建築、音楽と、最近では、工業デザインとバーチャルデザインに顕われている。例えば、90年代にアップル社が欠損続きだった際、経営者のスティーブ・ジョブズ氏は一夜のうちに素朴なデザインに根本的に戻すことで、会社の方向性を変えた。ジョブズ氏はそのデザインが日本の仏教に基づいたものであったことを明確にし、現代の最も著名な実業家の一人となった。これは仏教の思想や実践が我々の日常生活に具体的に影響を与えたほんの一例にすぎず、本講座では文化と仏教の相互関係について詳細に学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（比較文化学系）	Religion and Ecology	<p>(英文) Although the impact of environment on religion has been suggested, systematic analysis of dynamic relationships between religion and ecology has been paid less attention. This class deals with the relationships between religion (the human cognition of nature, society, and life and death in the broad sense) on the one hand, and ecology (human ways of living by the wider definition) on the other by referencing case studies of natural societies including hunting and gathering societies, agrarian societies, and pastoral societies. In particular, this course aims to provide an understanding of the diversity of religion and ecology and the linkage between nature and culture. It is also concerned with the meaning of religion in our age of developed scientific technologies in which religion is longed for, and the role of religion in forging symbiotic relationships with nature.</p> <p>(和訳) 環境の宗教への影響が言及されることはあるが、宗教－自然、社会、生と死に関する認識－と生態－人間の生活様式－は、これまで共通の基盤を持たない全く別個の現象とみなされる傾向にあるが、人類の歴史は両者が相互に関連する動態的關係の中で人類の生活が営まれてきたことを示す。本授業は、狩猟・採集、農耕、牧畜という基本的な生計を営む自然社会の事例をとおして、人類文化が築き上げてきた世界観・宗教および生態の多様性を学ぶとともに、宗教と生態、自然と文化との緊密な連関への理解を深め、高度に発達した科学時代にあってもなお希求される宗教の意味と、自然との共生関係に果たしてきた宗教の役割について学習する。</p>	
		Asian Society and Culture	<p>(英文) This course explores social and cultural diversities of Asia. Asia, a birthplace of great civilizations and religions, has had a long, transformational history. The course deals with the diversities while putting consideration on regional, ethnical, and linguistic elements. The course also looks at how Asian societies have intersected with Western civilization and culture.</p> <p>(和訳) 本授業は、アジアの社会的文化的多様性について学修する。偉大な文明や宗教の誕生の地であるアジアは長い歴史の中で様変わりしてきた。授業では地域的、民族的、言語的要素を考慮しながらそのような多様性を学修する。また、アジア社会が西洋の文明や文化とどのように関わってきたかに関しても学修する。</p>	
		European Society and Culture	<p>(英文) This course deals with not only Europe's history, culture, and art, but also its economic and political power which have great influence on the world's economy and politics. Dividing Europe into five regions (northern, western, central, eastern, and southern regions), the course deals with contemporary European societies after the European Union formed.</p> <p>(和訳) 本授業は、ヨーロッパの歴史、文化、芸術を主として、世界の経済や政治に大きな影響力を持つ経済力や政治力を取り扱う。ヨーロッパを5つの地域に分けながら、EU発足後の今日のヨーロッパの社会と各社会が抱える問題も学修する。</p>	
		Christianity and Culture	<p>(英文) Christianity has become a foundation for cultural and social life not only in English speaking countries, but also in the European Continent and Central and South America. Therefore, it would be impossible to understand these regions without understanding Christianity. This course deals with how Christianity is related to the culture and society of these regions and how it influences their world views. Religious culture has great importance in global society. The purpose of the class is to deepen our fundamental understanding of Christian culture, which is one of the major religious cultures in the world.</p> <p>(和訳) 英語圏を始め、ヨーロッパ、中南米においては、キリスト教が文化・社会生活の基盤をなしている。従って、キリスト教の理解なしに、これらの地域を正しく理解することはできない。本授業は、キリスト教がこれらの地域の文化、社会とどのように関わっているか、また、世界観にどのような影響を与えているかについて解説していく。グローバル化社会の中で影響をもたらす宗教文化のうち重要な位置を占めるキリスト教文化に対して、基本的な理解を深めることを目的とする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（比較文化学系）	Islam and Culture	<p>(英文) Today, Islam, born in the first half of A.D.7, has been increasing the number of its believers (Muslims) not only in the Arabian Peninsula where it has its birthplace, but also in various regions of the world including Japan, while concurrently enhancing its presence in the international community. To know about Islam may be essential for us to understand the globalizing modern society. This class aims to have students obtain basic knowledge on Islam to understand its impact on the state of society and culture in various regions of the world. In addition, through comparison of case studies, students learn about the characteristics of Islam such as diversity and universality.</p> <p>(和訳) 西暦7世紀前半に誕生したイスラームは現在、発祥地のアラビア半島のみならず日本を始め世界各地に信者を増やしており、国際社会におけるプレゼンスを高めている。イスラームについて知ることは、グローバル化が進む現代社会を理解する上で必須である。本授業は、イスラームが世界各地の社会や文化のあり様に与えた影響を理解できるよう、イスラームに関する基礎的知識を学修する。また、各地域のイスラームの事例を比較することを通して、多様性と普遍性というイスラームが持つ特徴について理解する。</p>	
		Buddhism and Culture	<p>(英文) Buddhism, the subject of this class, is one of the representative traditions of Asian thought. Within the various nations of Asia, the culture and society of a great number of regions is profoundly connected to Buddhism. In this class, we will explore how the influence of Buddhism is reflected in the regional culture and society of those areas. Furthermore, Buddhism has in recent years spread over the whole world. We will explore the special value and appeal of Buddhism when seen from the culture of the various countries in which it has been newly adopted.</p> <p>(和訳) 本授業は、仏教という、東洋思想を代表する伝統の一つについて学修する。アジア諸国の文化や社会は、仏教と深い関係にある地域が多い。これらの地域の文化、社会に、仏教が与えている影響について解説していく。なお、近年、仏教は国際的にも広まってきている。仏教を新しく受け入れた国々の文化からみた仏教の特別な価値や魅力についても学修する。</p>	
		Hinduism and Culture	<p>(英文) This class aims at having students acquire a basic knowledge of Hinduism, a religion which has developed from ancient Brahmanism and flourished in the Indian sub-continent. Hinduism is not merely a religious idea of the Hindu. It represents their moral sense, way of living, social convention and that which could be called Hindu culture, and even includes its influence outside of Hinduism, such as its impact on Buddhism. Through studying Hinduism from multiple perspectives, students will learn the importance of understanding and accepting cultural differences and diversities.</p> <p>(和訳) 本授業は、古代のバラモン教とそこから発展的に成立したヒンドゥ教について学修する。「バラモン教」や「ヒンドゥ教」という呼称は、単に宗教を示すのではなく、生活の様式や規範、社会の習慣や制度などを示すため、それらについても学修する。さらに仏教への影響や、異文化としてのヒンドゥの文化と思想を学び、国際的な視野を身につけ価値観の多様性を学修する。</p>	
		American Society and Culture	<p>(英文) This course divides the American Continent into four regions, North, Central, South America and the Caribbean, and looks at the characteristics of each region in terms of history, ethnicity, culture and industry. The course also pays attention to ethnic minorities in each region and refers to their society and culture.</p> <p>(和訳) 本授業は、アメリカ大陸を四つの地域（北、中央、南アメリカ及びカリブ海沿岸諸国）に分け、歴史、文化、民族性、産業の観点からそれぞれの地域の特徴を調べる。また、各地域の少数民族の社会と文化についても学修する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（比較文化学系）	African Society and Culture	<p>(英文) The purpose of this course is to have students learn about the diversity of societies and cultures in Africa, the second largest continent in the world. Students will study natural environments and histories of the sub-Saharan African people, as well as their different ways of earning their livelihood. Students also learn about the modern problems that African societies are facing, caused by the globalization of their economy and culture.</p> <p>(和訳) 近年経済成長が著しいアフリカは、日本にとって重要な地域のひとつになってくる。私たちはこの地域についてどれだけのことを知っているだろうか。アフリカといっても、アフリカ大陸は広大で、サハラ砂漠やカラハリ砂漠などの極度に乾燥した地域から、中央アフリカに広がる湿潤な熱帯降雨林まで、実に多様な生態環境を含んでおり、それぞれの地域に暮らす人々の社会も文化も多彩である。本授業は、サハラ以南アフリカを中心に、映像資料や写真資料を通して、多様な生態環境を生きる人々の社会と、そこで育まれる豊かな文化を学ぶと同時に、それぞれの社会が直面している現代的な諸問題について学修する。</p>	
		Field Research Practice	<p>(英文) This course deals with methodology and related topics of field work as a way to understand cultures from the viewpoint of everyday life. Students will examine major research methods and case studies based on field work in order to gain viewpoints from which they can analyze various aspects of cultures for comparative studies. For successful field work, constructing relationships of trust with people in the field is essential. As preparation for actual field work, we will also discuss the meaning of research and its effect on the society in question. Students need to complete the course of "Social Research(社会調査論)" in social group of liberal arts before taking this course. Also, finishing this course is required for taking major subjects "Noto Field Work" and "Kanazawa Culture Practice (金沢文化演習)" in advanced subjects of comparative cultural studies course.</p> <p>(和訳) 本演習は、文化を日常生活の視点から理解する方法としてのフィールドワークの方法と、関連する話題についてとりあげる。学生は、代表的な調査方法を学び、フィールドワークを基にした事例研究を検討、議論することにより、比較文化研究に向けて文化の多様な側面を分析するための視点を身に付ける。フィールドワークの成功のためには、現地の人々と信頼関係を築くことが不可欠である。実際のフィールドワークに向けて、調査をする意義や、その社会に対する影響についても議論を深める。</p> <p>なお、この科目の受講に際しては、「教養科目」「社会系」の「社会調査論」の単位を取得していることが必要である。</p> <p>また、この科目は、「専門科目」の「発展科目」「比較文化学系」の「Noto Field Work」及び「金沢文化演習」の受講に際しての履修要件科目である。</p>	
		Ethnic Minorities and Their Cultures	<p>(英文) This course introduces ethnic minorities in the world together with problems they are facing. Since the beginning of history, human societies have always consisted of various ethnic minority groups, some of which have been a target of persecution, isolation or reception. In Japan too, due to the increase of number of people with diverse cultural backgrounds, we need to analyse their communities in order to understand the Japanese society as a whole. The aim of this course is to learn how societies should respect ethnic minorities and treat them equally from the perspective of cultural relativism.</p> <p>(和訳) 本講義は、主に「マイノリティ（民族的少数派）」としての世界各地の社会で暮らす人々を紹介し、そこでの課題を論じるものである。歴史的に見ても、古代より各地には様々なマイノリティが存在し、迫害、隔離、あるいは優遇の対象となっていた。日本にも近年多様な文化的背景をもつ人々が増えつつあり、コミュニティが形成されるなど、日本社会を考察する上でもその理解は不可欠である。文化相対主義の観点から、マイノリティが社会的な存在として等しく尊重される社会の形成について学習することが本講義の目標である。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（比較文化学系）	Art and Culture	<p>(英文) Art is an activity inherent in human life and culture. Among various types of art, this course focuses on the history of applied fine arts and architecture that are eminently visual and have a close connection with our daily lives and society. The aim of the course is to familiarize students with not only well-known art from Western/Christian societies, but also to introduce diverse art from Asia and the Islamic world with visual materials in order to understand their uniqueness and commonality. The participants will also be required to rediscover and reconsider their own culture and art.</p> <p>(和訳) 芸術とは、人が生活し文化を営む過程において、ありとあらゆる場面に登場する人間に固有な活動である。本授業は、諸芸術のうち、視覚的な要素が強い美術工芸と建築を対象として芸術の歴史を論じる。一般になじみのある西洋キリスト教社会の芸術だけではなく、イスラーム世界やアジアを含む世界の芸術のありかたを俯瞰し、普遍性と固有性をテーマとして文化との結びつきを豊富な映像資料をとおして学修する。また受講者の身近なところにある芸術を捉えなおす機会も提供する。</p>	
		Gender and Contemporary Society	<p>(英文) Japan is known to be a remarkably unequal society as far as gender inequality is concerned (according to the findings of the survey on gender difference among 135 countries, Japan is ranked as low as 101st). In this course, through gaining of basic knowledge of gender and gender difference, we reflect on our own being by asking questions such as "What does it mean to be a human being?", and "How do we eliminate gender differences and live as individuals." The course also aims to help each participant understand gender issues and finding ways to live on their own terms irrespective of gender.</p> <p>(和訳) 日本は、男女格差が調査国135カ国中101位の国であり、男女の不平等が著しい国とされている。本授業は、「ジェンダー」に関する基本的な知識を学修することにより、我々自身の有り様、「人間とは何か」を問い直し、このような男女格差をなくし、各々が「自分らしく生きる」ためにはどうしたらよいのかを考える。各自がジェンダー論を通して性差を中心とする差異のあり方を理解し、自らの生活を相対化する視点を身につけることを学修する。</p>	
		Japanese Folk Culture	<p>(英文) People in all societies or cultures have constructed their own life-styles, sense of values and world-views or cosmologies. In complex societies such as Japan, one may historically distinguish between the "high culture" of the educated elites and the "folk culture" of the common people. Beginning with Yanagita Kunio, folklorists and later ethnographers or cultural anthropologists have researched the everyday lifestyles, material cultures and worldviews of the common people in Japan. In this class, particular attention will be paid to understanding the folk cultural foundations--especially in terms of symbolic classification systems, cultural values and worldview--of contemporary Japanese society and culture.</p> <p>(和訳) 世界中の人々は、それぞれ自分の社会・文化において、独自の生活様式、価値観や世界観・コスモロジーを構築してきて共有している。日本のような複雑な社会では、「ハイカルチャー・上位文化」と「ローカルチャー・民俗文化」を歴史的に区別することができる。柳田國男をはじめとする多くの民俗学者、民族学者、文化人類学者が、日本における一般の人々（常民）の日常生活、物質文化や世界観について研究してきた。本授業は、現在日本の文化・社会の基礎になっているとも言える民俗文化の象徴的分類体系、価値観や世界観を中心に学修する。</p>	
		Contemporary Japanese Culture	<p>(英文) Popular music has become a huge and important aspect of popular culture. This class, combining cultural anthropological, ethnomusicological and cultural studies approaches, will study the relationships between music (including lyrics and performance) and identity. In particular, the class will focus on popular music in postwar Japan, and will investigate the musical constructions or representations of "place," ethnicity, gender, subculture and globalization. The use or role of music in local revitalization will also be considered.</p> <p>(和訳) ポピュラー音楽がポップカルチャーのなかで重要で大きな存在になっている。本授業では、文化人類学的、民族音楽学的あるいはカルチャースタディーズ的アプローチを組み合わせ、（歌詞及びパフォーマンスを含めて）ポピュラー音楽とアイデンティティの関係性について学修する。特に戦後日本におけるポピュラー音楽に着目して、文化的「場所」、エスニシティ、ジェンダー、サブカルチャー及びグローバリゼーションなどの音楽的構築や表象について調べていく。地域活性化における音楽の使用や役割に関しても考察する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（比較文化学系）	Noto Field Work	<p>(英文) Field work is one of the research methods for understanding human culture from the viewpoint of everyday life. During field work, we visit a certain place (=“field”) to know structures of life, society, and specific value or thoughts, by sharing time and space with people there. The Noto peninsula is widely known for its unique traditional cultures. In this course, students will conduct fieldwork to understand Noto culture. We will observe nature and society there, interview people, and participate in events such as festivals to grasp culture through personal experience. Students need to complete the major subject “Field Research Practice” in advanced subjects of comparative cultural studies course, before taking this course.</p> <p>(和訳) フィールドワークとは、人間の文化を日常生活の視点から理解する方法の一つである。フィールドワークでは、特定の地域(フィールド)に赴いて、人々と時間と空間をとともにすることで、現地の生活や社会の仕組み、特有の価値観や考え方を理解しようとする。能登半島は、その固有の伝統文化によって広く知られている。本授業は、能登の文化を理解するためにフィールドワークを行う。能登の自然と社会を観察するとともに、人びとにインタビューをし、祭りなどの行事に参加することで、自らの経験から文化について学修する。 なお、この科目の受講に際しては、「専門科目」の「発展科目」「比較文化学系」の「Field Research Practice」の単位を取得していることが必要である。</p>	
		Globalization and Local Culture	<p>(英文) As social and cultural interactions proceed on a global scale, it is essential for people in the 21st century to understand regional characteristics and their transformation. For globalization does not always bring uniform lives and values; it reveals different regional cultures in which serious conflicts can occur. Regionality means diverse elements of the lives of people living there. Therefore, regional characteristics should be reviewed from a wide perspective including natural environment, history, politics, economy, and traditional values. In this course, based on case studies about social and cultural changes of each area, we will discuss many topics regarding the nature of globalization and our position within this trend.</p> <p>(和訳) グローバル化と総称される地球規模での社会・文化的交流がさらに活発化する中、各地域の特徴と変容を適切に理解することは、21世紀を生きるものにとって必須である。なぜなら、グローバル化は均質な生活や価値だけをもたらすわけではなく、異なる地域文化を顕在化させ、時に深刻な対立を生み出す側面をもつからである。地域とは、そこに生きる人々によって多様に規定される。そのため、環境、歴史、政治、経済、伝統的価値などを含む多角的な視点から、地域固有の特徴を理解する視野を養う必要がある。本授業では、各地域の文化と社会変容に関する事例研究をもとにして議論を行うことで、グローバリゼーションの性質について、そしてその中での自分の立ち位置について学修する。</p>	
		Thought and Culture	<p>(英文) In an age of globalization, the relationship between people of different civilizations has drastically changed. To ask ourselves anew who we are, what is it to be a human being, where is the truth, etc. is a serious challenge which modern people are facing in the universal trend of globalization. Taking this point into consideration, we are going to study how ancient sages and thinkers have dealt with these difficult problems. In this class, we will generate a discussion of our own problems as well, for example, the danger of losing ourselves under the influence of standardization. Students will at least try to find out a key to tackling these problems.</p> <p>(和訳) 国際化時代において、文明の発達人間の文化を大きく変えてきた。人間疎外の時代といわれる現代において、我々は改めて、人間とは何か、どこに人間の真実の生き方があるのか、という問題を厳しく問い直す必要があり、その問題が痛切に現代人に突き付けられている。本授業は、その問題に焦点を置いて、益々人間が画一化され、主体性を喪失していく現代に抗して、先人の哲学者・思想家を事例に現代人に求められる人間観の解明を学修する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（比較文化学系）	Food and Culture	<p>(英文) Food is indispensable for living. However, since the inception of civil societies, food rose above just its nutritional value, becoming an important aspect of culture. The foodstuffs we get are essentially the product of the local environment and agriculture. Highly developed cookware and recipes are the result of the fruits of traditional skills. In traditional table manners and taboos one can see the reflection of religious beliefs and concepts of morality. In this way, food culture has had an effect through the ages according to time and climate. Thus, study of food culture helps get deeper understanding of the local society.</p> <p>(和訳) 食は生きるために欠くことのできない行為である。だが、人は単に栄養を摂取するためだけではなく、食に様々の文化的価値をつけてきた。食材は各地域の環境や生業、農業生産と密接に関わっている。また調理方法や調理器具には伝統的技術の結晶がみとれる。食事作法や食のタブーには、宗教観や道徳観が反映されている。本授業は、時代や風土に即した多様な文化を紡ぎだしてきた食文化について学修する。</p>	
		Clothing and Culture	<p>(英文) In this course we consider "dress up" from the viewpoint of clothes. In the past, clothes and accessories were worn with not only the aim of dressing up (fashion) but also of protecting from dangers of the natural world and showing social status of the wearer. Namely it showed the identity of the person. We try to analyze "dress up" historically and culturally and understand its religious and social meanings. In connection with this, the belief of "evil eye" among South Asian society is also introduced.</p> <p>(和訳) 衣服も装身具も身体を美しく飾る目的だけでなく、自然界のもろもろの危険から身を守る意味もあった。また、それを身に付ける人の社会的地位や職業など、「アイデンティティー」の拠り所でもある。本授業は、「装うこと」を歴史的、文化的に考察し、そこに宗教的、社会的意義について学修する。関連して東アジアにおける邪視信仰についても触れる。</p>	
		Housing and Culture	<p>(英文) This course will introduce houses around the world and their cultural aspects. Although people's lifestyles has been standardized by the ruthless progress of globalization, individual residential architecture still keeps one's own identity associated with local culture. Each lecture demonstrates the building materials of residential architecture, religious customs and regulations, and spatial organizations based on family systems and ceremonial usage, together with their historical backgrounds. Palatial architecture, which is a kind of "gorgeous house" displaying symbolism and authority, is also discussed to delineate the difference and similarity between residential architecture of the common people.</p> <p>(和訳) 本授業は、世界各地の住居を紹介し、そこから浮かび上がる文化的側面を論じる。近年グローバル化に伴って、ライフスタイルの画一化が進む一方で、住宅建築は地域独自の事情に根ざした固有性を保っているといえる。世界の住居ではどのような建材が用いられ、宗教による規定や慣習、家族制度、儀礼的な使われ方に基づく空間が構成されるのかを、その歴史的な背景を学修する。また「豪華な住居」である宮殿建築における象徴性と権威の表象を取り上げ、一般住居との共通点と相違点を学修する。</p>	
		金沢文化演習	<p>金沢は豊かな伝統文化を保持する一方で、新たな文化の発信地としても注目を集めている。それら金沢の文化は、観光資源として活用されるなど、近年、多様なアクターにより様々な形で「活用」されている。本授業は、金沢の文化がもつ多様性と特色及びその活用の実態を、金沢の歴史を軸にグローバル化を含む地域社会の状況との関係を踏まえて理解することを目的とする。また、この授業を通して、文化の領域から、金沢の過去、現在について理解を深めるとともに、未来について学修する。なお、この科目の受講に際しては、「専門科目」の「発展科目」「比較文化学系」の「Field Research Practice」の単位を取得していることが必要である。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（観光学系）	Tourism Studies	<p>(英文) This course will teach students about the definition of technical terms and effects on tourism, and research trend, historical transformation and the development of tourism industry in each country. By getting history and structure about tourism, and background and some factors on the present situation, they will learn about some issues and the reality of tourism and understand that tourism is the cultural and social activities.</p> <p>(和訳) 本授業は、観光（ツーリズム）に関する用語の定義・効果・各国における研究動向・歴史的な変遷・観光産業の発展について学修する。観光の歴史や構造、現在の状況についての背景・要因を理解することで、観光が文化的・社会的活動であることを理解するとともに、観光が抱える課題について学修する。</p>	
		Hospitality	<p>(英文) About 70 % of the working population in Japan is engaged in service industries including tourism, and 'hospitality' is an essential part of service culture. Fully appreciating the essence and impact of hospitality on culture, local economy and industries/businesses is the first step to study tourism while developing the skills and attitudes is crucial to making valid decisions about future career paths in hospitality industry. This class teaches students about the whole concept of hospitality, which is considered from both perspectives of business operators and customers. It covers areas from the theoretical basis of hospitality in tourism industries to practical service situations in tourism businesses.</p> <p>(和訳) 我が国の就労人口の70%強が観光産業その他のサービス産業に従事する状況にあって「ホスピタリティ」はサービス文化に不可欠の要素となっている。ホスピタリティの基本とその文化・地域経済・産業及び企業に与える影響の全体像について理解を深めることは、観光に関する基本的知識のほか、将来の意思決定に必要な専門的知見を習得するための基礎となる。本授業では主として、観光産業におけるホスピタリティの理論的枠組みからサービスの実践面に至るまで、事業者（ホスト）と客（ゲスト）の双方向の視点から学修する。</p>	
		Leisure Studies	<p>(英文) Leisure is a wide concept which includes tourism. This class consists of lectures and practices to develop students' understanding of the concept of leisure and supports a comparative perspective to understanding tourism. Students will be able to understand the basic issues related to leisure which enables one to live a rich life, and the basic strategies of the leisure industry. Furthermore, future leisure and tourism prospects are also taught.</p> <p>(和訳) 本授業は、ツーリズムをその一形態として含む広範なレジャー概念を理解することにより、ツーリズムを相対的にとらえる視点を養う。レジャー概念の理解を通して、豊かな生活を営むために必要な基本的事項と、レジャー産業の基本的戦略を研究し、今後のレジャー・ツーリズムの可能性について学修する。</p>	
		Tourism Practice	<p>(英文) This course is related to both theory and practice in the area of tourism, and the purpose of this course is to have students deeply understand tourism through on-the-job practice. Through real-life experience, students acquire basic abilities necessary to carry out practical business, hospitality and dealing with people, and develop advanced planning skills based on systematic and integrated perspectives of tourism. Specifically, students are exposed to the local culture through the training program in the local travel agency and understand the characteristics of tourist destination and tourism business.</p> <p>(和訳) 本授業は、観光分野における講義科目・演習科目に関連し、現場での実習を通してさらに理解を深めることを目的とする。現場での体験から、ホスピタリティや「人との触れ合い」の実践力、実務を進める基礎的な能力、体系的で総合的な視野に立った実現性の高い企画能力を修得する。具体的には、海外で活動するツアーガイド会社で研修を行い、現地の社会や文化に触れ、当該観光地や観光ビジネスの特徴を理解する。</p>	集中

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（観光学系）	Tourism Culture Practice	<p>(英文)</p> <p>This course includes fieldwork to understand tourism culture. Students visit local sightseeing spots in Kanazawa and guide foreign tourists, while gaining knowledge of tourism culture. Students also study the current situation and the challenges of local tourism in Kanazawa, before and after the fieldwork. Specifically, in cooperation with the Kanazawa City Tourism Association, students guide tourists around typical sightseeing spots in Kanazawa, such as Higashi Chaya District, Kenroku-en Garden and Kanazawa Castle Park.</p> <p>(和訳)</p> <p>本授業は、地元金沢の観光地へ赴き、外国人観光客に対するボランティアガイドとしての実習、事前及び事後の学習を行う。事前事後の学習及び実習を通して、地元金沢の観光の現状と課題を学修する。具体的には、本学が金沢市の代表的観光地である「東茶屋街」で行っている観光ボランティア「おもてなし娘」や金沢市観光協会の観光ボランティア団体「まいどさん」と連携し、「兼六園」「金沢城址公園」などに訪れる外国人観光客に対する観光ガイド実習を行う。</p>	
		Tourism Industry	<p>(英文)</p> <p>Tourism industry is a generic term of the total of all businesses that directly provide goods or services to facilitate business and leisure activities away from the home environment. It contributes to acquisition of foreign currency, international culture exchange, enhancement of Japanese travel and generation of regional economic effects for local economy. Tourism industry also consists of several interrelated parts working together to achieve common purposes that should be characterized as a 'system.' This class consists of lectures to develop students' understanding of the elements and characteristics of tourism industry as a system and its impacts from multidimensional aspects.</p> <p>(和訳)</p> <p>観光事業は、生活圏から離れた場所で行われるビジネス・レジャー活動に対して直接的に提供される財・サービスに関わる様々な事業の総称であり、観光促進、地域経済活性化など社会的、文化的、経済的な諸効果を高めるとともに国際文化の交流や外貨の獲得に寄与するものである。また、観光事業は相互に関連する諸要素により構成されるシステムとしての性格も有している。本授業では、観光のシステムとして構成される観光事業の各要素とその特徴ならびに影響について多角的視点から理解を深める。</p>	
		Tourist Destinations and History	<p>(英文)</p> <p>Tourism is a social phenomenon which varies significantly depending on the social situation. This class consists of lectures and practices to develop students' understanding of the history and diversity of tourism, through both domestic and international case studies, allowing students to consider the sustainable tourism that is focused on in recent years. Students will obtain an understanding of tourism in the future.</p> <p>(和訳)</p> <p>観光は、社会経済の状況に応じてその形態や内容が著しく変化するものであるが、本授業は、近年志向されている「持続可能な観光」を考えるために、観光が発展してきた歴史や、観光資源や観光地の多様性を、国内外の事例を通して学修する。また、観光の歴史や多様性を理解することで、今後の観光のあり方を学修する。</p>	
		Hospitality Practice	<p>(英文)</p> <p>This class uses a case study methodology to teach students about hospitality in the tourism sector. Lesson contents include viewing hospitality from the point of view of the bi-directional relationship between customers and hospitality providers in areas where tourism takes place.</p> <p>(和訳)</p> <p>本授業は、観光分野におけるホスピタリティについて、ケーススタディを中心に、観光現場における事業者と顧客の双方向からホスピタリティのあり方について学修する。</p>	
		Culture and Society in Tourism	<p>(英文)</p> <p>In the modern era of expanding globalization, the tourism impact on local society and culture is significant. In view of the magnitude of the impact of tourism, this class consists of lectures and practices to develop students' understanding of the implications of the cultural, social and tourism through a variety of case studies. Students will learn the basic issues of the impact of tourism related to the development, conservation and utilization of tourism resources.</p> <p>(和訳)</p> <p>本授業は、観光が地域の文化や社会に与える影響の大きさに鑑み、様々な事例を通して観光と文化・社会との関わり合いを学修する。観光資源の開発・保全・活用に関わる社会文化的な基本事項を学び、その応用力を養うことを目的とする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（観光学系）	Tourism Policy	<p>(英文) The tourist, tourism resources, and the entire tourist industry can all be given as core tourism concepts. This class will teach students about the core of tourism policy, such as the promotion of tourist activities, care and development of tourism resources, developing tourism industries. Furthermore, Japan's tourism policies including the "Visit Japan Campaign" and the promotion of tourist destinations by local governments are taken as case studies.</p> <p>(和訳) 観光の中核概念としては、観光客、観光資源、観光産業が挙げられる。本授業は、観光政策の中核となる観光活動の促進、観光資源の保護と活用、及び観光産業の育成について学修する。さらに、ビジット・ジャパン・キャンペーン事業等を含めた日本の観光政策や地方公共団体による観光地の振興をケーススタディとして取り上げる。</p>	
		Tourism and Regional Studies	<p>(英文) "Tourism Machidukuri" is a new concept which means revitalizing local areas through tourism by local citizens. This class consists of lectures and practices to develop students' understanding of the concept of "Tourism Machidukuri" and the local economy's strong need for it. Students will consider the future of tourism and regional development through various case examinations of "Tourism Machidukuri".</p> <p>(和訳) 本授業は、比較的新しい「観光まちづくり」の概念とそれが登場する背景について理解した上で、観光によるまちづくりの現状を具体的な事例を用いて、今後の観光まちづくりの可能性を学修する。</p>	
		Tourism Management	<p>(英文) Tourism sector is regarded as one of the leading industries worldwide in the 21st century and positioned as the pillar of the growth strategy of the Japanese government. This class will consist of lectures of fundamental hospitality business management as well as case studies to develop students' understanding of basics of strategic management, actual condition and challenges of various tourism businesses that include transportation, travel agency business and lodging business.</p> <p>(和訳) 観光産業は21世紀のリーディング産業と言われており、わが国においても成長戦略の一つの柱として位置づけられている。本授業は、観光産業を理解するために必要な経営学の基本的知識を学んだ上で、旅行業や宿泊産業などの様々な観光産業の実態と課題について多様な事例を中心に学修し、戦略的経営の重要性について理解を深める。</p>	
		Tourism Information	<p>(英文) Students will learn the role that information, as represented through the Internet, plays in tourism and tourism-related business. The results of tourism development are greatly affected by the presence or absence of information. In addition, the dissemination of information, knowledge of what (information) is available, and technology has led to changes in modern tourism. The "information revolution" has altered how information flows, bringing about changes in the distribution of goods and services. In turn, this has changed the business model of the travel industry's role of mediator between the consumer (tourist) and service provider (supplier). Students will study the meaning of access to information and the changes brought about in recent times through the relationship between tourism and tourism-related business.</p> <p>(和訳) 観光及び観光関連事業において、インターネットに代表されるように、情報が果たしている役割を学ぶ。観光は情報の有無によってその結果が大きく左右される。また、情報の発信、受信の知識や技術が現代観光に変化をもたらしている。「情報革命」が情報の流れを変え、商品やサービスの流通に変化が生じ、消費者（観光客）とサービス提供者（サプライヤー）をつなぐ旅行業を媒介者としたビジネスモデルに変化をもたらしている。情報の持つ意味や現代にもたらしている変化について観光及び観光関連事業との関わりを通して学修する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（観光学系）	International Development	<p>(英文) In recent years, in the field of international development practices, the weight of social development has become more and more emphasized, as has been seen in the New Development Strategy of Development Assistance Committee (DAC) in 1996, or Millennium Development Goals (MDG) adopted by the United Nations (UN) General Assembly in 2000. In this course, the students will study basic theories of international development and their application to the developing countries' realities. Students will get basic knowledge of the theories and policies of international development, comparing them to the practices conducted by international organizations, donors and local NGOs, in both international and local scenes. It will give the students a basic theoretical framework and insight when they see the international development projects/programs in developing countries.</p> <p>(和訳) 近年、国際開発の現場では社会開発のウェイトが益々高まってきている。本講義においては、国際開発の基礎的な理論と実際の発展途上国への応用について学ぶことを目的としている。学生は国際的場面と地域の場面の双方において、国際機関、政府開発援助（ODA）、非政府組織（NGO）等によって行われている実際の活動を自分の目で確かめつつ、国際開発の理論や政策についての知見を得る。これによって学生は発展途上国における国際開発のプロジェクトや計画を見る際の基本的枠組みや洞察を得る。さらに、理論的枠組みでは国際開発における定義や主体、国際開発実現を目指す政策や実践を扱う。また、援助、すなわち外部からの支援の役割及び地域社会のオーナーシップについても論ずる。この講義では国際開発の仕組み、実施、効果、協力をする側と協力を受ける側の関係、問題点などについて分析する。又は国内外で活躍したい学生に開発途上国の歴史的背景、現状、抱えている諸問題などについて分析・解説しつつ必要な専門知識を身に付けることを目的とする。</p>	
	発展科目（英語学系）	English Linguistics	<p>(英文) This class explains various kinds of English language phenomena, while making comparisons with other languages, especially Japanese. It is intended that students will deepen their interest of language research by investigating a wide range of language phenomena from phonetics to semantics. They will gain a basic knowledge of English linguistics in phonology, morphology, syntax, semantics, and pragmatics.</p> <p>(和訳) 本授業は、英語に見られる様々な言語現象を、他の言語（特に日本語）と比較しながら、解明する。音声から意味まで広範囲の言語現象を対象とし、ことばの研究の面白さを実感してもらいたい。音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論にわたる英語学の基礎的知識を学修する。</p>	
		Practical English Grammar	<p>(英文) In this class, students review the content of English grammar they have learned, and come to understand what correct English grammar is. They will acquire practical English grammar useful in communication and, furthermore, English grammar which will support their future work as a teacher.</p> <p>(和訳) 本授業では、これまで学修してきた英文法の内容を見直し、正しい英文法とは何かを学修する。コミュニケーションに役立つ実用的な英文法、そして、将来英語を教える際に役立つ英文法も学修する。</p>	
		Interpretation Practice I	<p>(英文) This class focuses on understanding the principle of interpretation and development of listening skills. It includes practical interpretation training enabling students to translate English into Japanese quickly. Furthermore, in addition to higher linguistic performance, students will, through the medium of English, gain required skills for sightseeing, such as knowledge of geography, history and culture. Instructions will be given while being conscious of the need for students to pass interpreter/guide certification examinations in the future.</p> <p>(和訳) 本授業は、通訳の原理を理解し英語リスニング力を高めるとともに、それを迅速に的確な日本語に訳すための実践的な通訳訓練を行う。また、言語運用能力に加え、地理・歴史・文化など観光分野で求められる知識を英語で学修する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（英語学系）	Phonetics	<p>(英文) In this class, students will learn what the field of phonetics is. Building on this, a knowledge of English vowels and consonant usage will be focused on, while phonetic symbols will be taught. IPA (International Phonetic Alphabet) and phonetic symbols appearing in dictionarys will be learned and, in order to ensure fluid reading skills, writing of these symbols will be continually reinforced. Furthermore, phonetic changes (consolidation, omission and assimilation, etc.), and English distinctive rhythm and intonation will be taught. Through comparison with Japanese, knowledge of teaching of pronunciation will be deepened. Over one academic year of classes, students will repeatedly practice and become able to naturally pronounce English that can be understood. Each class will be based on content included in a handout.</p> <p>(和訳) 音声学とはどのような学問かという理論を学んだ上で、英語の母音、子音の調音方法に注目し、発音記号を用いて演習を行う。IPA(国際音声記号)を学習し、辞書の発音記号を読めるように、書けるように繰り返し学習する。また、音声変化（連結、脱落、同化など）や、英語独特のリズムやイントネーションについて学習する。日本語との比較を行い、発音指導方法についても知識を深める。1年間の授業を通して、通じる発音を身に付けるための演習を重ねる。 毎回配付するハンドアウトに基づいて授業を進める。</p>	
		Business English I	<p>(英文) In this class, students learn about English words and phrases which are used in various business environments including daily business in the office, at conferences, during presentations, and in contracts. Furthremore, they will acquire knowledge, common sense, and manners which are required in the business world. The final goal of this class is for students to use the knowledge of business English they have learned to carry on basic communication in various business settings.</p> <p>(和訳) 本授業は、オフィスでの日常業務から、会議、プレゼン、契約などの様々なビジネスの現場で用いられる英語表現を学修する。また、実際のビジネス社会で求められる知識、常識、マナーについても学修する。学修したビジネス英語の知識を用いて、基礎的なビジネスのコミュニケーションを様々なビジネスのシナリオでできるようにする。</p>	
		Translation Practice I	<p>(英文) This class focuses on practical training in translation. Various kinds of English sentences or passages are translated into Japanese in accordance with the scene or situation in which they are used. Through this training, students will develop their comprehension of English and their writing skills of Japanese, and enhance their own linguistic abilities in Japanese.</p> <p>(和訳) 本授業は、様々な英語の文章をそれぞれの場面や状況にふさわしい日本語に訳すという翻訳の実践的な学修を行う。学修を通して、英語を理解する力と日本語を書く力を高め、豊かな表現力の修得を目指す。</p>	
		Business English II	<p>(英文) This class develops the content the students have studied in Business English I. Students will understand and create various kinds of business correspondence. Additionally, with presentations for the business world in mind, they will create theme-based manuscripts.</p> <p>(和訳) 本授業は、Business English Iで学修した内容をさらに発展させる。様々な内容のビジネスレターを理解し、作成したりする。また、ビジネスで用いるプレゼンテーションを想定し、テーマに基づいて原稿を作成する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（英語学系）	Interpretation Practice II	<p>(英文) This class focuses on developing interpretation skills to and from English and Japanese. Special attention is paid to understanding the contrast between English and Japanese in their organization of argumentation as well as methods and orders in which propositions are typically presented in each language. Key learning points for skills in conducting desirable interpretations are illustrated case by case according to varying forms of interpretations while expositions to colloquial expressions unique to each language are also developed. Different interpretative skills and terminologies necessary for each interpretation type is covered including those for escort, guide, event, and conference interpretations.</p> <p>(和訳) 英語から日本語への通訳、日本語から英語への通訳のために必要なスキルを重点的に学修する。特に英語での論法、すなわちアイデアの提示の方法、順序がどのように日本語と異なるかを理解して英語のロジックを修得する。英語特有の口語表現、日本語特有の口語表現を解説しながら、場面や形式ごとに通訳のキーポイントについて学修を進める。アテンド通訳、観光ガイド通訳、イベント通訳、会議通訳など実際の通訳シーンに必要な表現とスキルについて学修する。</p>	
		Translation Practice II	<p>(英文) The ability to translate faithfully to original text constitutes a must in the discipline of translation. In actual translation, however, superior command of Japanese —the translator's first language— and interpretative skills which go beyond the original text are required. As such, translation is a creative process which sharply distinguishes itself from mere conversions of symbols between source and target languages. This course examines the basic procedures involved in creating equivalents between English and Japanese, while exploring actual translation workflow through translating English sources in a variety of categories, including novels, dramas, picture story books, poetry, and movie captions.</p> <p>(和訳) 翻訳の基本として、原文の正確な読解が必要であるが、実際の翻訳では原文の解釈を超えた高度な日本語能力と翻訳的思考が求められる。それは、英語の発想と論理で書かれている原文の内容を日本語の発想と論理に置き換えるという単なる言葉の置換ではない創造的な作業である。本授業では、構文の転換作業の基本的なルールを学修しながら、小説、戯曲、絵本、詩、映画字幕など様々なジャンルの英文を翻訳し、実際の翻訳作業のプロセスを学修する。</p>	
		Practice in English Linguistics	<p>(英文) This class focuses on comparative research between English and Japanese from a semantic and pragmatic perspective. Through this practice, students will acquire deeper knowledge about English and Japanese. Furthermore, they will learn about differences between English and Japanese from a viewpoint of applied linguistics. The knowledge gained in this class will be useful to them when they become an English teacher in the future.</p> <p>(和訳) 本授業は、英語学概論で学修した知識を基に、意味論的・語用論的観点から、日英語の比較対照研究を行う。授業を通して、より深い知識を身に付ける。また、将来教育現場に立ち、英語を教える時に役立つように、応用言語学的視点から、日英語の違いについて学修する。</p>	
		Tourism English I	<p>(英文) This class will consist of lectures and practices to develop students' understanding of English related to travel business including airlines, travel agencies and hotel accommodations from the perspectives of public relations. In each lecture, a topic will be given to students who are guided into opinions in English. Students will be able to understand vocabulary associated with tourism and communication / troubleshooting skills in English in order to build a positive attitude as well as English skills that are necessary for service providers in tourism and travel business to provide proper information.</p> <p>(和訳) 本授業では、海外留学で培った一定の英語力と異文化理解を前提に、航空業界、旅行業界、宿泊業界などの観光・旅行産業におけるコミュニケーションツールとして、主に発信の視点から有用となる英語を学修する。観光に関連する専門用語に関する理解、日本の観光や文化等に関する説明、外国人旅行者向け観光ガイドブックやインターネット上の英語の観光情報に関する理解、さらには観光・旅行に係るトラブルシューティングの場面で求められる英語コミュニケーションに必要となる知識、語句や表現を習得することで、サービスプロバイダ側に求められるコミュニケーション、とりわけ情報発信に対する積極性と実践的な英語能力の醸成を目指す。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（英語学系）	English Teaching Methodology I	<p>(英文) In this course, students learn the goals of English education in junior and senior high schools, and consider methods to achieve them, referring to those of foreign language activities in elementary schools. First, students read and understand the government's curriculum guideline books, and then they consider teaching materials and methods.</p> <p>(和訳) この授業では、中学校・高校での英語教育における目標とその目標を達成するための方法に関して、小学校の外国語活動も視野に入れて検討する。具体的には個々の教育指導要領解説を読んで教育内容を理解した後、求められる教材や指導法を検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (7 岡本 芳和／8回) (中学校・高等学校の指導要領の理解と教科書内容の考察：第1～8回)</p> <p>(英文) First, students understand the aims of language education by reading the government's curriculum guideline books of junior and senior high schools. Then, they discuss the contents of teaching materials and textbooks in both schools in terms of vocabulary, grammar, and function.</p> <p>(和訳) 前半は、中学校・高等学校の教育指導要領解説を読んで英語科教育の目標と内容を理解する。また、中学校・高等学校の英語科教育で使用されている教科書の内容について、使用語彙、文法、表現の機能という観点から検討して議論する。</p> <p>(1 川村 義治／7回) (英語教育における異文化理解と英語教授法：第9～15回)</p> <p>(英文) First, students analyze and discuss the contents of English education in junior and senior high schools in terms of cross-cultural understanding. Then, they learn various English teaching methods including the use of ITC</p> <p>(和訳) 後半は、文化の観点から中学校・高等学校での英語教育で取り扱う内容を検討して、世界の文化の理解と日本の文化の発信に関して考察する。また、ITCの活用法を含めた、様々な教授法に関して学修する。</p>	オムニバス方式
		Tourism English II	<p>(英文) This class will consist of lectures and practices to develop students' understanding of English and customer services for hosting inbound tourists / travelers, starting from checking in for a flight, disembarkation process, arranging accommodations and checking in a hotel, use of traveler's checks, dining at a restaurant, sightseeing, purchasing souvenirs, acting as a guide, using fast food restaurants etc.. Students are expected to build a positive attitude and develop communicative skills fully functional to understand the needs of the guests correctly and host them responsibly by the end of the course.</p> <p>(和訳) 本授業では、海外留学で培った一定の英語力と異文化理解を前提に、航空業界、旅行業界、宿泊業界などの観光・旅行産業におけるコミュニケーションツールとして、主にインバウンド関連業務におけるカスタマーサービスの視点から、ゲスト（観光客・旅行者）が代表的な場面で使用することが想定される実用的な語句や表現を学修する。搭乗手続、入国手続、ホテルまでの移動、宿泊手続、観光情報の入手、観光旅行、ショッピング、多様なシチュエーションで食事をするなどの際にゲストが使用する語句や表現を習得することで、サービスプロバイダ側に求められるコミュニケーション、とりわけゲストのニーズを英語で正確に理解し責任ある対応をするための積極性と英語能力の醸成を目指す。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（英語学系）	English Teaching Methodology II	<p>（英文） In this course, students study a variety of theories and methods to help learners achieve the aims of English education. For example, they learn the second language acquisition theories and methods to improve the four language skills. They also discuss requirements for teachers of English, learners' motivation and perception, and learn classroom English to prepare for trial English lessons.</p> <p>（和訳） この授業では、英語教育に関する様々な理論や手法に関して学ぶ。学生は第二言語習得理論、四技能の指導法、さらに学習者論、教師論、英語で教えるための教室英語などを検討して、模擬授業に活用する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （1 川村 義治／8回）（第二言語習得理論と四技能の指導法：第1～8回）</p> <p>（英文） Students study second language acquisition theories and language learning processes, and learn the method of improving the four language skills.</p> <p>（和訳） 前半は、第二言語習得理論を学んで言語習得のプロセスを理解したうえで、四技能の指導法に関して学修する。</p> <p>（7 岡本 芳和／7回）（教室英語、生徒論、教師論、および模擬授業：第9～15回）</p> <p>（英文） Students learn classroom English in order to teach English in English. Moreover, they learn what teachers of English are required and how students are motivated, and also learn how to conduct team teachings to carry out trial lessons.</p> <p>（和訳） 後半は、英語を使って英語を教えるために教室英語について学習する。また、円滑な授業運営を行うために、学習者論、教師論、協働授業の在り方を学んで、模擬授業に生かす。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（英語学系）	English Teaching Methodology III	<p>（英文） In this course, students acquire more concrete knowledge and methods in order to begin teaching English at school. First, students understand knowledge and language abilities required in both junior and senior high schools. Then, they learn some teaching methods required in the classroom. For example, they learn teaching methods about sound, vocabulary and grammar. Furthermore, they consider the importance of international understanding and communication skills in English language education.</p> <p>（和訳） このコースでは英語授業を担当するために必要な具体的知識や方法論について学ぶ。中学校、高等学校で要求される知識や言語能力を確認した後、実際の指導に欠かせない方法論に関して学ぶ。音声、語彙、文法に関わる指導方法、英語教育における国際理解やコミュニケーション能力の重要性について考察する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （7 岡本芳和／2回）（中学校・高等学校の英語の授業：第1回～2回）</p> <p>（英文） Students understand the social environment surrounding junior and senior high school students, and consider how they teach students listening skills, speaking skills, reading skills and writing skills, using English.</p> <p>（和訳） 中学生・高校生を取り巻く社会環境を踏まえ、英語を使って聞く、話す、読む、書く活動をどのように指導するかを考える。</p> <p>（1 川村 義治／8回）（音声、語彙、文法に関わる指導のあり方：第3回～第10回）</p> <p>（英文） Students discuss and consider how to teach English in English. They also learn how to teach English pronunciation and deal with word meanings and grammar.</p> <p>（和訳） 中学校、高等学校で英語を使って英語の指導をどのようにするかを検討する。また、音声指導、語彙の意味や文法指導に関して学ぶ。</p> <p>（7 岡本芳和／5回）（評価論、英語教育と国際理解、目的論：第11回～第15回）</p> <p>（英文） Students consider the significance of evaluation in teaching English and the evaluation methods in accordance with specific purposes. Then, they understand the importance of international understanding and communication skills, and consider the purpose of learning English.</p> <p>（和訳） 教育評価の意義と個々の具体的な目的に応じた評価方法を検討する。また、英語教育における国際理解やコミュニケーション能力の重要性を理解し、英語を学習する目的について考察する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目（英語学系）	English Teaching Methodology IV	<p>(英文) In this course, students gain more practical knowledge and skills to teach at school as a student teacher. After they analyze teaching materials, make a test, and make teaching plans, they conduct and discuss trial lessons in order to improve their teaching skills.</p> <p>(和訳) 教育実習生として実際に英語を教えるための実践的な知識と技能を学ぶ。教材研究、テスト研究、指導案作成を行った後、実際に模擬授業を試みて議論を交わし、教育実習を行える実践力の育成をめざす。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (7 岡本 芳和／6回) (教材研究、テスト研究：第1～6回)</p> <p>(英文) With the purpose of performing trial lessons, students analyze teaching materials and make a test. They compare teaching materials and English tests, and learn how to teach English and how to make English tests according to students' academic levels.</p> <p>(和訳) 前半は、模擬授業に向けて教材研究、テスト研究を行う。適切な教材の選び方、適切なテストの作り方について学習する。また、様々な教材やテストを比較し、学習者の能力に応じた指導法やテスト作成について学習する。</p> <p>(1 川村 義治／9回) (指導案作成、模擬授業：第7～15回)</p> <p>(英文) Students write teaching plans for their trial lessons and conduct trial lessons. Then they discuss how to improve their teaching in order to teach as a student teacher.</p> <p>(和訳) 後半は、指導案作成を行い、実際に授業で模擬授業に取り組む。その後、それぞれの模擬授業に関して議論して改善すべき点を明らかにし、教育実習を遂行するためのより高い実践力の育成をめざす。</p>	オムニバス方式
		Cross-cultural Understanding	<p>(英文) The course consists largely of two parts. One is that students learn about the diversity and universality of culture in terms of language. Each language has a phatic function such as exchanging greetings or expressing politeness. Students learn how the English language behaves in this respect compared with the Japanese language. They also learn the roles of the grammatical subject in both languages. The other is that students learn how to deepen their cross-cultural understanding by discussing various social issues in other countries. For example, students consider how people try to solve social problems in Washington D.C., how the Singaporean government recruits human resources from abroad, and so on.</p> <p>(和訳) 授業は大きく二つの内容から構成される。最初に言語の機能から見た文化の多様性と普遍性を考える。言語には伝達機能のほかに「挨拶」に代表される交話的機能や相手に敬意を払う表現形式がある。日本語と英語を対比して対人関係の捉え方などを検討する。また、主語の機能に注目して思考や感情の表出の違いなどにも言及する。次に、海外の社会事情から具体的に異文化理解のあり方を検討する。ワシントンD.C.における社会問題の取り組み方、シンガポールの就労事情、各国の若者の独立などの話題を取り上げて、日本社会と比較しながら文化理解のあり方を考察する。</p>	
	アカデミックイングリッシュ	Global Issues	<p>(英文) In this course, three experts will analyze a variety of issues that have become more obvious in this age of globalization. We focus on the related topics in our specialized field, such as an analysis of the urban society of the Middle East, or an investigation of social problems in South Asia from the past to the present.</p> <p>This course aims to understand the connection between the history of these areas and global issues, such as ethnicity, religion, urban infrastructure and governmental organization, which are at the basis of recent disputes.</p> <p>(和訳) 本授業は、担当者の専門分野、地域を通して、今日の国際社会における様々な問題について考えることに焦点をあてる。民族、宗教、都市インフラ、統治機構などをテーマとして、歴史を俯瞰し、現代に至るまでの諸問題の根源について学修する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	アカデミックイングリッシュ	Debate	(英文) In this class, students learn about the method of debate, and develop an ability to have a higher-leveled communication in English by doing debate practice. They will get abilities to gather information related to a theme, analyze it, state their opinions logically, and persuade others. (和訳) 本授業は、ディベートの手法を学修し、ディベート演習を取り入れて、英語による高度なコミュニケーション能力を養う。あるテーマに関連する情報を収集し、分析を行い、論理的に自分の意見を論じ、相手を説得させるコミュニケーション能力を養うことを狙いとする。	
		Academic Writing	(英文) The purpose of this course is to learn how to write research papers about humanities and social science, with an aim to writing a graduation thesis in English. Students will learn how to organize a research paper, acquire the English expressions necessary to write one, and go on to write a 15000 word or more research paper about a theme. (和訳) 本授業では、英語による卒論の作成に向けて、人文社会科学系の研究論文の書き方を学修する。研究論文に必要な英語表現や論文の構成の仕方を学び、適切なテーマについて15,000語以上の研究論文を書く。	
		Thesis Writing	(英文) In this class, the teacher provides guidance to students who are going to write their graduation theses in English. In particular, students are instructed on matters of academic-writing style and proper source documentation. (和訳) 本授業は、卒業論文を英語で書く学生に対して、その論文指導を行う。とりわけ、英語の学術論文らしい文体と、参考文献や引用文の出典の正しい示し方についての指導が中心となる。	
	ゼミナール	Major Study Seminar I	【全体概要】 (英文) Students are required to read books and broaden their perspectives on their interests before they discuss them in the class. Through discussion, students learn how to obtain and interpret documents related to their themes, how to use technical terms, and how to construct reasonable paragraphs. Students also go on field work and do some research to find out clues leading to their graduation thesis. After field work, students analyze data and write reports. Then, they give presentations in the class and exchange opinions. These discussions help students discover themes for their graduation thesis. (和訳) 学生は各自が興味を持つ対象について幅広く書物を読んで視野を広げるとともに、専門領域に関する先行研究の文献内容を討議して専門的な理論や方法論を学ぶ。英文による卒業論文作成に向けて、英文の関連資料を読み、論証の展開の仕方、パラグラフの書き方、用語の使用法に関して話し合う。目的と方法を明確にして調査・研究計画を練る。様々な文化現象を対象としてフィールドワークを行い、調査・研究をすすめて卒業論文につながるテーマを見つける。現地調査を行って集めた資料は、分析して報告書としてまとめる。ゼミ発表を行って意見交換し、実施した調査の課題や問題点を整理して卒業論文のテーマを決める。	
			【比較文化学系概要】 (英文) Students who are interested in the field of comparative culture can choose a seminar from among disciplines such as cultural anthropology, Buddhism and culture, and literature work and religion. (和訳) 比較文化領域に関心のある学生は、文化人類学・仏教と文化・文芸作品と宗教を中心とした分野の中から興味のあるゼミを選択することができる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール	Major Study Seminar I	<p>(5 ROBERSON JAMES EARL) (英文) This class will introduce students to Theory and Methods in Cultural Anthropology and provide them with the foundations that they will need in order to conduct their own original research. In the first half of the class, students will critically read and review influential theories in contemporary Cultural Anthropology. Here, students should connect such theories to Japanese culture and society. In the second half of the class, students will learn ethnographic fieldwork methods and practically apply these in the planning, conduct and presentation of original research projects. (和訳) 本ゼミナールは、学生が卒業論文に向けてオリジナルな研究ができる基盤を構築するため、文化人類学の理論と方法論を紹介する。前半は、現在の文化人類学に影響を持つ理論（家）についての論文などを批判的に精読して批評していく。その中、こうした理論の現代日本文化と社会への適応性を考える。後半は、エスノグラフィック・フィールドワークの研究法を学んで、それをオリジナルな研究の企画、実施とプレゼンテーションに実践的に使っていく。</p>	
			<p>(9 高橋 優子) (英文) Students will extract "religiosity" in works (including popular culture such as comic, movie, animation, game) that they choose. The "religiosity" is expected to have relation with some kind of religious thought. (和訳) 学生は各自選択した文芸作品（マンガ、映画、アニメーション、ゲームなどのポピュラーカルチャーを含む）から、「宗教性」を抽出する。その「宗教性」は何らかの宗教的思想と関連していることが求められる。</p>	
			<p>(10 Bayer, Achim Uwe) (英文) In this class, we will study and discuss topics of special interest to the participants, in connection with comparative culture, especially Japanese Buddhism and Buddhism as a world religion. The issues can include such questions as how Buddhism has delineated and influenced the cultural sphere nowadays known as "the East" or "Asia"; how it, at present, affects "Western" culture and is in turn affected by the globalization of culture; and what are the trends and perspectives for the future development of Buddhism and Asian culture. Students will learn how to phrase such abstract issues in concrete research questions and project descriptions and how to carry out specific research work in a limited time frame. (和訳) 本授業で比較文化と、特に日本仏教や、世界宗教としての仏教に関して、参加者が特に興味のあるテーマについて討論する。討論する話題は、例えば、現在「東洋」及び「アジア」として知られる文化圏が仏教によってどのように限定され、影響を受けたのか、仏教が現代の「西洋」文化にどのように影響を与え、文化の国際化によってどのように影響を受けているか、将来、仏教と東洋文化が発展するための傾向や見通しはどのようなものかなど、様々なテーマが可能である。学生達は同様の抽象的な疑問を具体的な研究議題に概括してプロジェクト計画を記述し、限られた期間内に特定の研究課題を行う技法を学ぶ。</p>	
			<p>(11 小河 久志) (英文) In this class, students are required not only to increase their knowledge on their interests but also to obtain basic knowledge on cultural anthropology as a science of cross-cultural understanding by reading books and learning how to best conduct field work. They decide themes for their graduation thesis based on the knowledge acquired through their studies. (和訳) 本ゼミにおいて学生は、各自が本を読んで興味をもつ対象に関する知識を増やすとともに、異文化理解の学問である文化人類学の基本知識やフィールドワークの方法について学ぶ。そこで得られた知見を踏まえて卒業論文のテーマを決める。</p>	
			<p>【観光学系概要】 (英文) Students who are interested in the field of tourism can choose a seminar from among disciplines concerned with tourism. (和訳) 観光領域に関心のある学生は、観光学を中心とした分野の中から興味のあるゼミを選択することができる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール	Major Study Seminar I	<p>(3 捧 富雄) (英文) Tourism is the practical science and it should be learned in the class and applied in the field. Therefore, aim to foster mutual understanding with various values and hospitality, students are taken part in the events for tourists outside the field work just for research. (和訳) 観光学は実学的学問であり、教室で学んだことを実際の現場で応用し体得することが必要である。このため、研究調査のためのフィードバックだけでなく、いろいろな観光イベントに参加して相互理解とホスピタリティを涵養することを目指す。</p>	
			<p>(① 岡 達哉) (英文) Research strategies considered in this seminar are case studies and/or survey research. The students are required to choose a topic for their research. This seminar also puts a strong emphasis on hospitality, communication and interpersonal skills. The students will improve their ability to transmit knowledge to a general audience while learning practical tips to improve their public speaking and presentation skills. Fundamentals of leadership/followership and techniques to lead effective small or large group discussions will also be included. The students are expected to: -Learn effective hospitality management -Communicate complex ideas to diverse audiences -Concisely summarize their ideas and research -Broaden one's network and manage a positive and successful relationship with local people -Prepare for internships and job interviews (和訳) 本ゼミナールが想定する調査研究手法は主にケーススタディ又はサーベイであるが、特にホスピタリティ、コミュニケーション、接遇に力点が置かれる。プレゼンテーションやグループディスカッションの技術、リーダーシップの基礎等を学びつつ、学修した知識を分かりやすく人に伝える能力を磨くことを通じて、効果的なホスピタリティマネジメントの習得、コミュニケーション力の向上、ネットワークの強化、インターンシップの準備等につなげていく。</p>	
			<p>【英語学系概要】 (英文) Students who are interested in the area of the English language choose the seminar they are interested in from among the fields of English education, English linguistics, Content and Language Integrated Learning (CLIL), and World English. (和訳) 英語領域に関心のある学生は、英語教育、英語学、内容言語統合型学習、ワールドイングリッシュの分野の中から興味のあるゼミを選択することができる。</p> <p>(1 川村 義治) (英文) In this seminar, students aim to acquire practical knowledge and skills about teaching English. Each student first picks up one teaching methodology, reports its advantages and limits, and demonstrates teaching English with the method. Then, they write teaching plans, perform trial lessons in class, and exchange opinions about each other's performance to enhance their knowledge about English education and improve their teaching skills. (和訳) 本ゼミナールでは、学生はいかに英語を教えるかに関して実用的な知識とスキルを獲得することを目指す。最初に、各学生は英語教授法から一つを選んで内容を紹介するとともにその教授法による英語指導を実演する。また、教案を作成して、クラスで模擬授業を行い、互いの授業内容に関して意見交換し、英語教育に関する知識と具体的なスキルの向上を目指す。</p> <p>(7 岡本 芳和) (英文) In this seminar, comparative studies in English and Japanese are conducted in terms of semantics and pragmatics. Especially, it focuses on how speakers' mental attitude is involved in speech or texts. (和訳) 本ゼミナールでは、意味論・語用論の観点から日英語の比較対照研究を行う。特に、話し手の心的態度が言語表現にどのように関係しているのかを探究する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール	Major Study Seminar I	<p>(8 田中 富士美) (英文) In this seminar we will look at the many issues surrounding the World Englishes and English as a Lingua Franca. After reviewing the basic concept of those two paradigms, we will look at some of the following issues: history of the spreading English, English imperialism, English language roles in the globalized contemporary world, non-native speaker English, English in Asia, and English as a multicultural language.</p> <p>(和訳) 世界諸英語論、国際共通語としての英語に関する学術研究を展開する。この二つの論の基礎的概念に関する学術書や資料を読み考察し、英語の広まりの歴史、英語帝国主義、グローバル化した現代世界における英語の役割、非母語話者の英語、アジアの英語、多文化言語としての英語について広く追究する。</p>	
			<p>(12 LYNCH GAVIN LEIGH) (英文) Students become familiar with the topic of Content and Language Integrated Learning (CLIL) through teacher-prescribed texts and papers. From this, they develop an awareness of how CLIL is used throughout the world and can begin to think about the advantages and disadvantages of using such a methodology in Japan.</p> <p>(和訳) 学生は教員によって与えられたテキストや論文を通して、内容言語統合型学習のテーマについて理解をする。これにより、学生は内容言語統合型学習が世界でどのように使用されているのかに対する意識を高め、日本でそのような方法論を用いるメリットとデメリットを考えることができるようになる。</p>	
		Major Study Seminar II	<p>【全体概要】 (英文) Based on their graduation thesis theme, students read early research papers and give presentations about them. Students also give presentations on the outline of their thesis and show how their paper is organized. As they are required to write their paper in English, students explain how they plan to proceed with their paper and share problems and possible solutions. Students continue to report on their progress and obtain advice from other students and their teacher. If more fieldwork is needed, they make detailed plans before carrying it out.</p> <p>(和訳) 卒業論文の作成に向けて活動する。決定した卒業論文のテーマに基づき、研究の目的と方法を発表する。参考となる先行研究の文献を読み進めて、随時その概略をクラスで報告して知識を共有する。各自卒業論文の概要と章立て案を作成して発表し、その内容と構成に関して議論する。英語による論文の草稿を書き、作成上の課題を報告して、クラスで検討する。卒業論文の中間発表を行って問題点を絞り込み、完成に向けた作業の見通しをつける。現地調査がさらに必要な場合は、その目的と方法が明瞭な計画書を再度作成して実施する。</p>	
			<p>【比較文化学系概要】 (英文) Students who are interested in the field of comparative culture can choose a seminar from among disciplines such as cultural anthropology, Buddhism and culture, and literature work and religion.</p> <p>(和訳) 比較文化領域に関心のある学生は、文化人類学・仏教と文化・文芸作品と宗教を中心とした分野の中から興味のあるゼミを選択することができる。</p> <p>(5 ROBERSON JAMES EARL) (英文) In this seminar, students will review major themes and issues in the Anthropology of Contemporary Japan. After an initial broad survey, students will be required to read and present reviews of the anthropological literature related to their own research interests and topics. Students must critically connect their literature reviews to their ethnographic fieldwork in order to show how the latter will contribute to anthropological understandings of contemporary Japanese society and culture.</p> <p>(和訳) 本ゼミナールでは、学生が現代日本に関する文化人類学的研究の重要課題を学ぶ。こうした研究を概観してから、学生が個人的に関心・興味をもっている課題に関する文化人類学的先行文献を批判的に精読したうえで、ゼミで紹介する。学生が批評した先行研究と自分が実施したい・しているエスノグラフィック・フィールドワークの関係性や自分の研究が現代日本文化と社会に関する文化人類学的理解にどのように貢献できるかを説明する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	ゼミ ナール	<p>Major Study Seminar II</p> <p>(9 高橋 優子) (英文) Students will summarize the research history about their own theme, and show their method and hypothesis of their thesis. They will introduce the work itself and related evidence such as from biblical accounts. (和訳) 各自のテーマに沿って研究し整理を行い、作業仮説を提示する。各自選択した作品の内容及びその作品に関連すると思われる宗教思想の根拠となる聖書箇所などを分かりやすく紹介することも必要である。</p> <p>(10 Bayer, Achim Uwe) (英文) In this class, we will study and discuss the chosen research topics of the participants, in connection with comparative culture, especially Japanese Buddhism and Buddhism as a world religion. Students will learn how to organize and plan their research, collect data for their research database, plan the structure of their graduation thesis and reorganize the collected data into a coherent piece of academic writing. (和訳) 本授業で比較文化、特に日本仏教や、世界宗教としての仏教に関して、参加者が決めた研究題目について討論する。学生達が自分の研究計画の作り方、研究データベースの資料の収集、卒業論文の構成を組み、収集した資料を一貫した学術書に書き下ろす技法を学ぶ。</p> <p>(11 小河 久志) (英文) In this seminar, students collect various data about the themes of their graduation thesis through field work. The collected data are analyzed and the results are presented in the class by students, and it is expected that students find issues to discuss. They are also required to read documents to use as references to obtain knowledge on their themes. Finally, students will use such data and knowledge to construct the outline and structure of their thesis. (和訳) 本ゼミにおいて学生は、卒業論文のテーマについてフィールドワークを行い資料を集める。その資料に分析を加えてゼミで発表し、議論することで問題点を発見する。また、文献を読んで卒業論文のテーマに関する知識を習得する。最終的にそれらを接合して卒業論文の概要と構成を作成する。</p>	
		<p>【観光学系概要】 (英文) Students who are interested in the field of tourism can choose a seminar from among disciplines concerned with tourism. (和訳) 観光領域に関心のある学生は、観光学を中心とした分野の中から興味のあるゼミを選択することができる。</p> <p>(3 捧 富雄) (英文) As tourism is interdisciplinary learning, it is expected that students' will have a wide range of interests and graduation thesis themes. For this reason, it will be difficult for them to all share knowledge and discuss their themes. Various measures will be put in place to guide students to overcome this issue and be able to find connections to their own work in other students presentations. (和訳) 観光学は学際的な学問であるため、学生たちの関心とかれらの卒業論文のテーマは広範囲にわたるといえる。このため、クラスで知識を共有し議論することには困難が伴うことも予想される。それらを考慮した上で、このゼミナールでは、自分のテーマに関連させて他のメンバーの発表を考察するように訓練するための指導を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール	Major Study Seminar II	<p>(① 岡 達哉) (英文) In this seminar the students are expected to work on literature review and reading for their research independently (under the academic advisor's supervision) to prepare themselves for management careers in the future. Reading is the essence of the most crucial elements in research, as it leads to development of intellectual and analytical thinking skills through contact with various views and opinions. When the students are writing their academic work including graduation thesis, they will need to use a number of sources: books, articles, magazines, newspapers, the Internet, lecture notes and others. An important element in organizing the literature search is the ability to reference the sources appropriately, which should be understood and perceived as important by the students.</p> <p>(和訳) 本ゼミナールでは、将来必要となるマネジメント力の強化の一環として、指導教員のもと、研究のための文献調査及びリーディングを学生が自発的に進めることが期待される。リーディングの強化は、様々な見解と接することで分析的思考技術を習得するため極めて重要である。また、図書、論文、雑誌、新聞、インターネット、授業ノートなど様々なソースを活用して文章を書く上で必要となる参考文献の適切な引用方法についても理解を深める。</p>	
			<p>【英語学系概要】 (英文) Students who are interested in the division of the English language choose the seminar they are interested in among from the field of English education, English linguistics, Content and Language Integrated Learning (CLIL), and World English.</p> <p>(和訳) 英語領域に関心のある学生は、英語教育、英語学、内容言語統合型学習、ワールドイングリッシュの分野の中から興味のあるゼミを選択することができる。</p>	
			<p>(1 川村 義治) (英文) In this seminar, students give presentations on their graduation thesis theme and get their thesis into shape. Students first speak about their ideas and exchange opinions in order to make clear the objectives and methods of their studies. After starting to work on their research, they are required to frequently report on the progress of their thesis and get suggestions from the class for the purpose of refining their papers on English education.</p> <p>(和訳) 本ゼミナールでは、学生は卒業論文をまとめるために論文のテーマに関して何度も発表を繰り返す。最初に、考えている内容に関して報告し、意見交換を行って研究の目的と方法を明確化する。次に、書き始めたら、途中経過に関してその都度報告して助言を受け、英語教育に関する論文の向上を目指していく。</p> <p>(7 岡本 芳和) (英文) In this seminar, students develop what they learned in the major study seminar I much further. They make a presentation about the theme of their graduation thesis, deepen discussion on it, and complete their graduation thesis.</p> <p>(和訳) 本ゼミナールでは、専門ゼミ I で学習した内容をさらに発展させる。学生は各自の卒業論文のテーマに沿って発表を行い、議論を深め、卒業論文を完成させる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール	Major Study Seminar II	(8 田中 富士美) (英文) In this seminar students will be required to read extensively more about World Englishes and English as a Lingua Franca and a variety of topics relating to those paradigms including English divide, language and poverty, language and economy, and gross language products. Building upon their extensive reading, students will be required to conduct a small research upon the topic of their choice, collect their own data, present it to the class and prepare a research paper summarizing their findings. At the end of this course students should have gained: 1) familiarity with different types of qualitative and quantitative research methodology 2) knowledge and practical skills on how to conduct their own research projects 3) the foundations necessary to write a graduation thesis (和訳) 世界諸英語論、国際共通語としての英語の概念についての更なる学究を深める。英語格差、言語と貧困、言語と経済、言語総生産といった議論も考察する。その上で、自身が深く研究したいテーマを選び小規模なリサーチ、データ収集を行い、発表し、卒業論文につなげる。 下記の3点の知見を備える 1) 質的研究・量的研究の手法について 2) 調査研究の理論と実践 3) 卒業論文作成の基礎	
			(12 LYNCH GAVIN LEIGH) (英文) Students develop a framework for using CLIL in Japan. They think of problems that may arise and, concurrently, list possible ways to eliminate or mitigate such issues. Students prepare to make a presentation on their work, which will be done both orally and in report form. Major Study Seminar II takes a student-centered approach, allowing students the freedom to deeply explore their topic of research. (和訳) 学生は日本で内容言語統合型学習を使用するための枠組みを作り出す。そして、起こりうる問題について考え、同時に、そのような問題を取り除く、又は、それを抑制する可能な方法を列挙する。学生は各自の研究に関するプレゼンテーションの準備をし、そのプレゼンテーションは口頭によるものとレポート形式によってまとめられる。本ゼミは学生中心型の教育方法を取り入れ、学生に各自の研究のテーマを深く探求できるものにする。	
		Graduation Thesis	(英文) In this course, students learn how their paper should be organized. They are encouraged to write the abstract, body, conclusion, and references in sequence. Students not only learn English paragraph construction, but also how to use objective research methods, disseminate results, and tackle remaining issues. Students give oral presentations to get some advice and make their paper clearer and better-organized. (和訳) 卒業論文の概要、本論、結論、参考文献の各パートの英文作成を順次進め、その都度進捗状況を報告して検討する。英文原稿は、全体の構成、章立て、章の構成、パラグラフの構造などの構成面と、用語の使い方、時制や冠詞などの表現面に関して何度も再考する。さらに、目次、参考資料、注の付け方等も論文の大切な構成要素であり、先行研究の例を調査して慎重に作成する。また口頭発表に向けて内容を取りまとめ、発表練習をする。最後に作成した内容を再度、研究の動機、目的、先行研究、調査、成果、残された課題といった観点から見直して論文の一貫性を確保する。	
			【比較文化学系概要】 (英文) Students advance their own research into the theme of the seminar they belong to, and complete their graduation thesis. (和訳) 所属する各ゼミナールのテーマに関する研究を進め、論文を完成させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール	Graduation Thesis	<p>(5 ROBERSON JAMES EARL) (英文) In this seminar students will write their graduation theses about contemporary Japanese culture and society, based on their own original ethnographic fieldwork and critical literature reviews. Throughout the semester, students will present drafts of chapters for class discussion and feedback. (和訳) 本ゼミでは、学生が現代日本の社会と文化に関する先行文献の批判的精読とオリジナル・民族誌的フィールドワークを基に卒業論文を書く。論文の各章の原稿をゼミでプレゼンテーションをして、それについてのディスカッションとフィードバックを受け、完成度高い論文を仕上げる。</p>	
			<p>(9 高橋 優子) (英文) The examination of their own hypothesis is required, while dealing with criticism against that. The criticism can be from advanced research materials or peer students in this seminar. Logical consistency is the most important element of the work. (和訳) 各自の作業仮説を検証するため、証拠となる材料を精査する。その際必ず反対説を考慮することが必要である。反対説とは、先行研究における自説に反する立場だけでなく、ゼミの出席者によって提起されたものを含む。この作業において最も重要なのは、論理的一貫性である。</p>	
			<p>(10 Bayer, Achim Uwe) (英文) In this class, we will study and discuss the topics chosen for the graduation thesis in connection with comparative culture, especially Japanese Buddhism and Buddhism as a world religion. Students will learn how to phrase their writing in appropriate style, proofread their writing, fill gaps in the collection of data and phrase coherent conclusions. (和訳) 本授業で比較文化、特に日本仏教や、世界宗教としての仏教に関して、参加者が卒業論文の題目として選んだテーマについて討論する。学生達が適当なスタイルで文章を作成し、文章を校正し、資料の欠損を修正し、一貫性のある結論となるように作成する技法を学ぶ。</p>	
			<p>(11 小河 久志) (英文) Students in this class are required to present the results of their study as a graduation thesis. They are encouraged to write an abstract, body, conclusion, and references in their thesis. Students also compile the thesis content and practice for oral presentation. (和訳) 本ゼミにおいて学生は、これまで行った研究の成果を卒業論文としてまとめる。卒業論文の概要、本論、結論、参考文献の作成を進めていく。また、口頭発表に向けて内容を取りまとめるとともに、発表の練習を行う。</p>	
			<p>【観光学系概要】 (英文) Students advance their own research into the theme of the seminar they belong to, and complete their graduation thesis. (和訳) 所属する各ゼミナールのテーマに関する研究を進め、論文を完成させる。</p>	
			<p>(3 榎 富雄) (英文) As students' graduation thesis themes are wide-ranging, there is a danger that students will only give the basics, such as an introduction of tourist destinations or the present situation of tourism industries. Therefore, students are guided to carry out correct research and, based on this, create a paper which puts emphasis on their personal opinions. (和訳) 卒業論文のテーマが広い範囲にわたることから、ややもすると観光地の紹介や観光産業の現状の記述に止まってしまう恐れがある。このため、正確な調査に基づいて自分の意見を主張するといった論文の論理構成についても重点的に指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	ゼミ ナール	<p>Graduation Thesis</p> <p>(① 岡 達哉) (英文) The themes of the thesis the students will be pursuing generally include, but are not limited to: -Hospitality in travel and tourism industries -Leadership/Followership and hospitality management -The impact of LCC (Low-cost carrier) -FIT (Free Independent Travelers) and 'new tourism' -Sustainable tourism and corporate social responsibility -Event management -Tourism destination management -Tourism and risk management -Ethics of tourists/travelers (和訳) 卒業論文のテーマとしては以下のような内容が考えられる（これらに限定されるものではない）。 ・観光・旅行産業におけるホスピタリティマネジメント ・リーダーシップ・フォロワーシップとホスピタリティマネジメント ・LCC（格安航空会社）がもたらす影響 ・個人旅行とニュー・ツーリズム ・サステイナブル・ツーリズムと企業の社会的責任 ・イベントマネジメント ・観光地マネジメント ・観光とリスクマネジメント ・観光客・旅行者の倫理</p>	
		<p>【英語学系概要】 (英文) Students advance their own research into the theme of the seminar they belong to, and complete their graduation thesis. (和訳) 所属する各ゼミナールのテーマに関する研究を進め、論文を完成させる。</p> <hr/> <p>(1 川村 義治) (英文) Once students select their topic of English education, they are asked to read academic articles dealing with the same topic and find out how sentences compose a paragraph and how paragraphs compose a chapter. Once they start drafting their paper, the drafts are corrected and returned with suggestions. Then, students should rethink and rewrite their draft paper, and hand it over again to get it checked. Repeating this cycle, students try to improve their writing. (和訳) 学生は扱う英語教育のテーマが決まったら、関連する文献を読み、文がどのように段落を構成し、段落がどのように章を構成しているかを調べるように求められる。論文の草稿を書き始めたら、原稿は訂正されてアドバイスとともに返される。学生は再考して草稿を書き直し、再提出して点検を受ける。このサイクルを繰り返して原稿を仕上げていく。</p> <hr/> <p>(7 岡本 芳和) (英文) Students advance their research using the following concepts, and complete their graduation theses. In their theses, they generate hypotheses, collect data, establish theories, and explain them. 【concepts】modality, subjectivity, speech act, viewpoint (和訳) 次に示す概念を用いて研究を進め、学生は卒業論文を完成させる。論文の中では、学生は仮説を立て、データを収集し、理論を構築し、それを説明する。 【概念】モダリティ、主観性、言語行為、視点</p> <hr/> <p>(8 田中 富士美) (英文) Graduation Thesis Seminar is designed to guide students to complete their bachelor's thesis. Through regular individual or small group meetings, students will receive necessary advice to conduct effective research, to structure their argument, and to compose as well as edit the thesis including appendix, bibliography, and graphs for completion. (和訳) 卒業論文完成のための指導 グループ、個別の指導を通して、調査研究をより良く進める方法、理論構築、さらには論文の付録・別表のつけかた、参考文献、グラフのつけかたを含めた論文作成・編集についても指導する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール	Graduation Thesis	<p>(12 LYNCH GAVIN LEIGH)</p> <p>Students will be tasked with and supported in finding a suitable graduation thesis topic and, in parallel, students will be taught how a graduation thesis paper should be logically laid out, including proper referencing throughout.</p> <p>The teacher will act in the role of supporter, providing advice and materials deemed necessary. Thesis writing will be an iterative process, with students handing up their papers regularly for correction and guidance. Much of the support given at this stage will include critical thinking analysis and logical argument advice. Students will also be expected to make presentations of their graduation thesis papers.</p> <p>(和訳)</p> <p>学生は適切な卒業論文のテーマを見つける責務を負い、そしてそのサポートを受ける。同時に、適切な参考文献の選択を含め、どのように卒業論文が論理的に明確に論じられるかの指導を受ける。教員はサポーターとしての役割を担い、アドバイスをを行い、必要だと考えられる資料を提供する。卒業論文の作成は反復のプロセスであり、学生は定期的に、訂正や指導のために論文を提出する。この段階で与えられるサポートの多くには批判的思考に基づいた分析や論理的主張を行うためのアドバイスが含まれている。学生はまた各自の卒業論文のプレゼンテーションを行うことが期待されている。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 職 科 目	教職入門(中等)	教育にはいつの時代にも求められる資質能力(不易)と時代が教員に求める資質能力(流行)がある。ここでは現在高校の現場が具体的な事象に対してどのような対応をとりながら問題解決を図っているか、教職という特殊分化が抱える問題を考察する。具体的には教育の歴史、発行法規関係、教師の日常的な業務に対する理解を中心に扱う。	
	教育学概論(中等)	「教育とはどのようなものか」ということについて、古来、多くの人々が様々な角度から説明しようと試みてきた。この困難さは、教育なる行為が直接関わる人間という存在の曖昧さにあるといえることができる。哲学者カントは「人間とは教育されねばならない唯一の被造物である」と述べているように、人間は、教育の必要性和可能性をもつ唯一の存在であり、そこに動物と区別される真に人間的な特色があるということである。本講義では、人間の教育可能性の問題について、西洋教育史の知見から概観して考察を深めていく。特に、ルソーからはじまる近代教育の特色、すなわち近代の子供観にもとづく経験主義の理念を中心に、教育が学校教育制度によって体系化・組織化されていく社会的背景についても丁寧に考察していく。合わせて、カリキュラムの歴史的変遷を追い、現代の学習指導要領の特徴についても言及する。	
	障害者教育	これまで障害のある児童・生徒の教育は、主に障害児学級や特殊教育諸学校(盲・聾・養護学校)で行われてきた経緯がある。しかし近年は、通常の学級に在籍する学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症等の特別な教育的ニーズのある児童・生徒を対象とし、さらに地域や家庭の要請等により教育相談を行うなど、その在り方自体が変わり、現在は特別支援教育と呼ばれている。本授業では、特殊教育から特別支援教育への変遷について知り、その理念、制度、機能、そしてさらに「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」による現在の障害児教育の具体的方法や内容を概観する。	
	教育心理学(中等)	教育心理学は教職課程の中でも重要視されているが、教職課程の中での教育心理学は、子どもの発達の科学的な広い洞察に富んだ理解を与えることを核としている。子どもを指導・教育する立場のものとしては、子どもの心身の発達を目標として、自分たちを取り巻く環境により良く適応し、環境をうまくコントロールすることを支援する必要がある。本授業では、将来の教師に子どもの発達、学習や適応等を巧みに導くのに必要な心理学的技術・洞察を与えることに力点を置く。	
	生徒・進路指導論(中等)	いじめ、SNSによる非行・被害、性的非行、少年犯罪の増加など、次々に問題行動が現れてきている状況下において、生徒指導の目的としての「開発的指導」「予防的指導」「治療・矯正指導」の3つの観点と、「学業指導」「個人の適応指導」「社会的指導」などの6つの領域・内容から生徒指導の理論と方法について理解する。さらに、自らの体験を振り返りながら中学校・高等学校における進路指導の取り組みや、生徒の職業観を育むためのキャリア教育の現状について事例をもとに理解する。	
	道徳教育の理論と方法(中等)	道徳教育の変遷を通観し、学習指導要領から道徳教育の目標・内容・計画方法を学び、学校現場の現状とその教育方法を把握する。また、家庭生活や社会生活との関連や、そこに起こる諸問題について考察し学校教育としてどう対応できるかを具体的に討議する。以上の点から道徳教育の果たす役割を理解し、様々な事例を基に自分に引き寄せて考え、そこから得られた意義を自らの実践につなぎ継続することによって、自らを高める展開になる授業を行う。	
	教育相談の理論と方法(中等)	近年、通常学級の中で、軽度の知的障害や発達障害を示す特別支援を必要とする子どもへの支援が注目されている。そして、学校の中の心理的な問題や悩みなど、個々の子どもを理解しながら、個別に心理的な支援計画が立てられている。このような状況の中で、教育相談の意義と目的について理解するとともに、学校教育相談の機能と特徴に関する基本的知識を習得する。また、子ども理解の方法やカウンセリングの基本的な理論・技法の概略を学び、学校における子どもの様々な問題に対する指導力の基本を身に付ける。	
	教育社会学(中等)	人々が生まれ、育ち、学び、働き、自己実現していくプロセスには、彼らを取り巻く多くの人々や社会組織との関わりがある。学校現場の活動も社会との関係性を抜きにしては理解できないのである。本講義では、「教育」と「社会」との関係性を、社会や集団が人間形成にどのような影響を及ぼしているのか、逆に、教育は社会の存続や発展にどのように貢献しているのか、という視点から考察する。具体的には、近代社会が理想とした人材・地位の配分システムであるメリトクラシーの問題、変貌の過渡期にある家族の問題、不登校現象やいじめ、ニートといった教育諸問題に着目して考察する。	
	介護等体験(事前・事後の指導を含む)	介護等体験とは、小学校・中学校の教員免許状取得に必要な特別支援学校(旧盲・聾・養護学校)及び社会福祉施設等における介護等の体験活動のことである。主に「社会福祉施設(特別養護老人ホーム、知的障害者更生施設、児童養護施設等)において5日間」、「特別支援学校(旧盲・聾・養護学校)において2日間」の「合計7日間」の体験活動を行う。義務教育に従事する者が、障害者や高齢者に対する介護や交流を通して、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する知識を深め、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期することを目的としている。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	特別活動の理論と方法（中等）	21世紀に入り我が国の教育は、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題、少子化など多くの課題を克服する期待が込められ、様々に議論されている。その中で、学校現場は主知主義に留まらず、豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚、自ら課題を見付け解決していく能力、生きる力、を醸成するべく教育課程の編制において、どのように「特別活動」を位置付け、どのようにその運営に創意工夫をしているのか、について理解を深める。	
	教育課程論（中等）	教育課程の概念や構造を理解しながら、教育課程の歴史的な変遷を学習指導要領の変遷とともに概観して各時代の学力観についての知見を得る。次に、中学校と高等学校の学習指導要領解説・総則編で示されている「教育課程編成の一般方針」を紐解きながら、教育課程編成の原則などについて理解したり教育課程の評価について「学校評価」や「学習評価」と併せて理解したりする。また、教科や総合的な学習の時間などにおける教育課程について実際の中学校・高等学校の例を基に考察するとともに、「小中一貫教育」「中高一貫教育」の取組の現状や教育課程と生徒指導との関係について把握する。さらに、教育課程研究の動向について、カリキュラムマネジメントの観点から理解を深める。	
	教育方法論（中等）	中学校や高等学校においては知識・技能を教える授業から、自ら考え判断し表現する学習へと変わってきている。この授業観を具体化するためには教育の方法と技術について検討しなければならない。生徒が自ら考え判断し、表現する授業とはどういったものなのか、理論や実践例をもとに学んでいく。また「わかる授業」のための方法論として、情報機器（ICT）の活用が注目されている。ICT活用による学習例やその効果について検討するとともに、ICTを活用する授業を自らで構想し、そのための教材作成スキルを身に付ける。さらに、学生自身が自ら考え判断し、表現する活動を通して、授業の今日的課題について考察する。	
	中等教育実習・事前事後の指導	教育実習の意義について理解した後、教育実習の具体的な展開方法を知る。その後学校という組織体を「学校管理運営計画」によって概観する。教育実習の実施が迫ると、自己の教育実習を行う校種・教科の学習指導案をかき、模擬授業を行う。教育実習後は事後研究において自己評価を行う。	
	中等教育実習Ⅰ	教育実習は一定期間、教師となって学校教育の実際について総合的、体験的に学ぶ場である。また、大学で学んだ教育の理論や知識を実地によって確かめ、深めたりする場であるとともに、教育の本質に接近しながら、自己の教師としての資質能力を確認する場でもある。学校において、子どもたちと向き合ったり触れ合ったりする中で、教えることや学ぶことについて考える。	集中
	中等教育実習Ⅱ	教育実習は一定期間、教師となって学校教育の実際について総合的、体験的に学ぶ場である。また、大学で学んだ教育の理論や知識を実地によって確かめ、深めたりする場であるとともに、教育の本質に接近しながら、自己の教師としての資質能力を確認する場でもある。学校において、子どもたちと向き合ったり触れ合ったりする中で、教えることや学ぶことについて考える。なお、このⅡの教育実習はⅠの教育実習2週間の実習に続いて行われるものである。	集中
	教職実践演習C（中・高）	「履修カルテ」から自らの教職に関する学びと教育実習等による経験を振り返り、グループディスカッションを通して課題を整理することにより、個々に演習テーマを設定し、調査研究や探究活動を通して課題の解決を図り、授業の中でその成果を発表して相互討論を行う。また、学校教育の現場ですぐに役立つ諸能力を確実に身に付ける上で、授業づくり・学習評価・授業研究、カリキュラム・マネジメント、校内研究の企画・運営、学級経営、生徒理解・生徒相談、校務分掌の遂行、教員研修の心得と取組、服務・健康管理等の教職ライフデザインのそれぞれのテーマについて、グループディスカッション等による実践演習や講義によって理解を深め、実践的指導力の養成を図る。	